

〈 資 料 編 〉

一般市民調査結果データ

1 調査概要

【調査対象及び回収の状況】

調査対象者 2,000 名（町田市内在住の 20 歳から 64 歳の市民の中から無作為抽出）

回収件数 820 件

有効回答件数 813 件（有効回収率 40.7%）

【調査方法】

郵送による配付、回収

【調査期間】

2012 年 9 月 14 日～9 月 30 日

2 調査結果の見方

- ① 設問の回答者数は N で表示している。
- ② 集計は、小数第 2 位を四捨五入しているため、数値の合計が 100%にならない場合がある。
- ③ 標本誤差は、回答者数と得られた結果の比率によって異なる。各回答の比率における誤差（95%は信頼できる誤差の範囲）は下表の通りである。

回答数(N) \ 比率	5% 又は 95%	10% 又は 90%	15% 又は 85%	20% 又は 80%	25% 又は 75%	30% 又は 70%	35% 又は 65%	40% 又は 60%	45% 又は 55%	50%
N=800	±1.5%	±2.1%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.2%	±3.3%	±3.4%	±3.4%	±3.5%
N=500	±1.9%	±2.6%	±3.1%	±3.5%	±3.8%	±4.0%	±4.2%	±4.3%	±4.4%	±4.4%
N=300	±2.5%	±3.4%	±4.0%	±4.5%	±4.9%	±5.2%	±5.4%	±5.5%	±5.6%	±5.7%
N=100	±4.3%	±5.9%	±7.0%	±7.8%	±8.5%	±9.0%	±9.3%	±9.6%	±9.7%	±9.8%
N=50	±6.0%	±8.3%	±9.9%	±11.1%	±12.0%	±12.7%	±13.2%	±13.6%	±13.8%	±13.9%

※回答数 800、そのうち 30%（＝回答の比率）が回答した場合、この回答に対する誤差は ±3.2%である。

- ④ 統計的検定結果については、5%水準に＊印を、1%水準に＊ ＊印を、それぞれ付記した。
- ⑤ 自由回答の集計については、内容ごとに分類し集計した。

3 回答者の属性

1) 性別

○女性（57.4%）が男性（41.1%）を上回っている。

問 12 回答者の性別

	件数	割合 N=813	割合 (除無回答) N=801
男性	334	41.1	41.7
女性	467	57.4	58.3
無回答	12	1.5	—
全 体	813	100.0	100.0

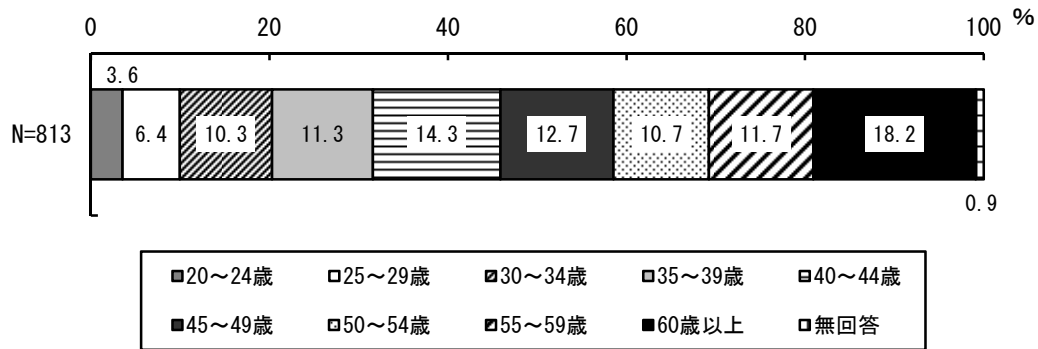
2) 年齢

○「60歳以上」が最も多く、次いで「40～44歳」、「45～49歳」となっている。20歳代の割合は、他の年齢層と比べてやや低くなっている。
○住民基本台帳の年齢構成比と比較すると、回答者の20歳代の割合が低くなっており、60歳代の割合が高くなっている。

問 13 回答者の年齢

	件数	割合 N=813	割合 (除無回答) N=806
20～24歳	29	3.6	3.6
25～29歳	52	6.4	6.5
30～34歳	84	10.3	10.4
35～39歳	92	11.3	11.4
40～44歳	116	14.3	14.4
45～49歳	103	12.7	12.8
50～54歳	87	10.7	10.8
55～59歳	95	11.7	11.8
60歳以上	148	18.2	18.4
無回答	7	0.9	—
全 体	813	100.0	100.0

問 13 回答者の年齢



問 13 <参考>住民基本台帳の人口構成比との比較

	人口 (人)	割合 (%)	意識調査 年齢構成比 (%)
20～24歳	21,516	8.6	3.6
25～29歳	23,205	9.2	6.4
30～34歳	26,221	10.4	10.3
35～39歳	34,156	13.6	11.3
40～44歳	36,971	14.7	14.3
45～49歳	29,845	11.9	12.7
50～54歳	24,536	9.8	10.7
55～59歳	23,610	9.4	11.7
60歳以上	31,306	12.5	18.2
無回答	—	—	0.9
全 体	251,366	100.0	100.0

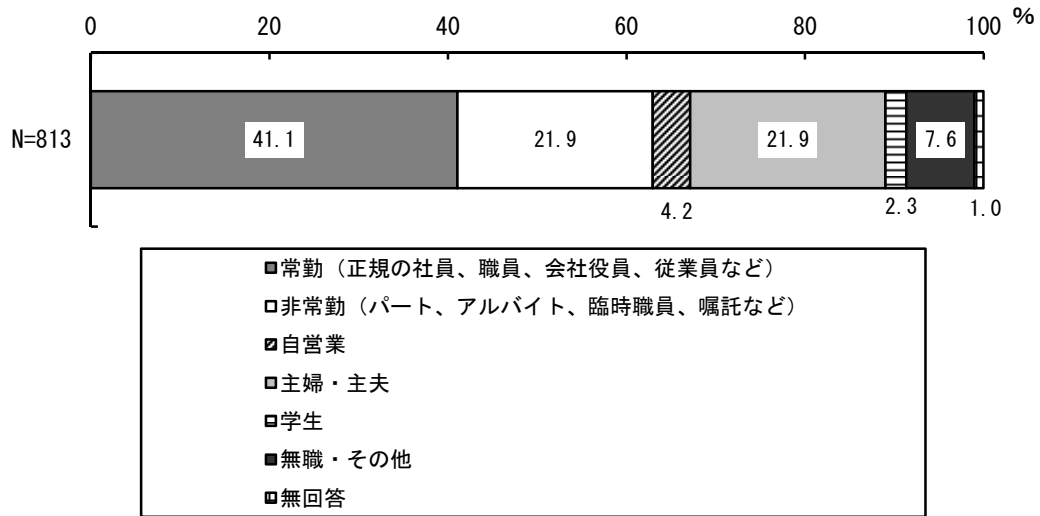
3) 就業状況

○「常勤」が最も多く、次いで「非常勤」と「主婦・主夫」となっている。

問 14 回答者の就業状況

	件数	割合 N=813	割合 (除無回答) N=805
常勤（正規の社員、職員、会社役員、従業員など）	334	41.1	41.5
非常勤（パート、アルバイト、臨時職員、嘱託など）	178	21.9	22.1
自営業	34	4.2	4.2
主婦・主夫	178	21.9	22.1
学生	19	2.3	2.4
無職・その他	62	7.6	7.7
無回答	8	1.0	—
全 体	813	100.0	100.0

問 14 回答者の就業状況



4) 家族構成

○「二世代世帯」が約 6 割で最も多く、次いで「夫婦のみの世帯」、「単身（一人世帯）」、「三世代世帯」となっている。

問 15 回答者の家族構成

	件数	割合 N=813	割合 (除無回答) N=803
単身（一人世帯）	86	10.6	10.7
夫婦のみの世帯	152	18.7	18.9
二世代世帯（親と子どもからなる家族）	481	59.2	59.9
三世代世帯	55	6.8	6.8
その他	29	3.6	3.6
無回答	10	1.2	—
全 体	813	100.0	100.0

5) 子育て経験の有無

○「はい（子育て経験あり）」（66.9%）が「いいえ」（31.9%）を上回っている。

問 16 回答者の子育て経験の有無

	件数	割合 N=813	割合 (除無回答) N=803
はい	544	66.9	67.7
いいえ	259	31.9	32.3
無回答	10	1.2	—
全 体	813	100.0	100.0

6) 住宅の形態

○「持ち家」が回答者全体の4分の3を占めている。

問 17 住居形態

	件数	割合 N=813	割合 (除無回答) N=805
持ち家（一戸建て・共同住宅含む）	602	74.0	74.8
賃貸住宅（一戸建て・共同住宅含む）	185	22.8	23.0
社宅・官舎・寮	9	1.1	1.1
その他	9	1.1	1.1
無回答	8	1.0	—
全 体	813	100.0	100.0

7) 暮らし向きについて

○「中の上」、「中の中」、「中の下」の3項目を合すると8割である。

問 18 暮らし向きについて

	件数	割合 N=813	割合 (除無回答) N=802
上の上	2	0.2	0.2
上の中	20	2.5	2.5
上の下	38	4.7	4.7
中の上	212	26.1	26.4
中の中	316	38.9	39.4
中の下	115	14.1	14.3
下の上	56	6.9	7.0
下の中	29	3.6	3.6
下の下	14	1.7	1.7
無回答	11	1.4	—
全 体	813	100.0	100.0

8) 居住地区

○「南地区」が最も多く、次いで「鶴川地区」、「町田地区」の順である。

問 19 居住地区

	件数	割合 N=813	割合 (除無回答) N=800
堺地区	61	7.5	7.6
忠生地区	113	13.9	14.1
鶴川地区	187	23.0	23.4
町田地区	158	19.4	19.8
南地区	281	34.6	35.1
無回答	13	1.6	—
全 体	813	100.0	100.0

4 調査結果

1) 「若者の自立」について

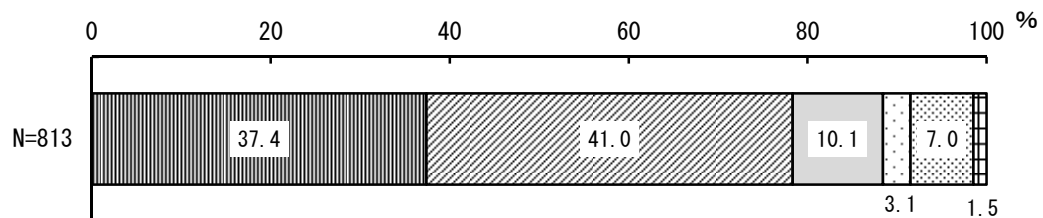
(1) 「自立していない若者が増えている」ことに対する考え

○「自立していない若者が増えている」と感じている市民が8割弱を占めている。

問1 「自立していない若者が増えている」ことに対する考え

	件数	割合 N=813	割合 (除無回答) N=801
そう思う	304	37.4	38.0
少しそう思う	333	41.0	41.6
あまりそう思わない	82	10.1	10.2
そう思わない	25	3.1	3.1
どちらともいえない	57	7.0	7.1
無回答	12	1.5	—
全 体	813	100.0	100.0

問1 「自立していない若者が増えている」ことに対する考え



■そう思う ■少しそう思う □あまりそう思わない □そう思わない □どちらともいえない □無回答

■子育て経験の有無別、暮らし向き別にみた「自立していない若者が増えている」ことに対する考え

○子育て経験の有無別では「ある」人、暮らし向きが「上」と感じている人で、「自立していない若者が増えている」と感じている人が多い。

子育て経験の有無別（問 16）、暮らし向き別（問 18）にみた
「自立していない若者が増えている」ことに対する考え（問 1）

問 1 「最近、自立していない若年者が増えている」と言われていることについて

		全体	そう思う	少しそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	どちらと もいえな い	無回答	そう思う +少しそ う思う	あまりそ う思わな い+そう 思わない	どちらと もいえな い
全 体		813	304	333	82	25	57	12	637	107	57
		100.0	37.4	41.0	10.1	3.1	7.0	1.5	78.4	13.2	7.0
問16	はい	544	36.8	44.1	9.2	2.4	6.1	1.5	80.9	11.6	6.1
子育て経験	いいえ	259	38.2	34.4	12.4	4.6	8.9	1.5	72.6	17.0	8.9
	無回答	10	50.0	40.0	0.0	0.0	10.0	0.0	90.0	0.0	10.0
問18	上	60	48.3	35.0	8.3	1.7	6.7	0.0	83.3	10.0	6.7
暮らし向き	中	643	36.9	42.5	10.1	3.1	5.8	1.7	79.3	13.2	5.8
	下	99	34.3	35.4	11.1	4.0	14.1	1.0	69.7	15.2	14.1

子育て経験：**1%有意

暮らし向き：*5%有意

○自立していないと感じる理由は「定職についていない人が多い」「親に依存している」が多い。

問 2 問 1 の回答状況別にみた意見内容

問1の回答状況	問 2 意見内容	件数
1. そう思う	経済的に自立していない、定職についていない	37
	親への依存・実家で親に身の回りのことをやってもらっている	47
	メディアで報じられている	29
	周りの人（知人、家族）に自立していない人がいる	62
	責任感がない、自己中心的、他人任せ、コミュニケーション能力なし	48
	目標、夢がない	11
	少子化や経済状況などが影響している	22
	教育に問題がある（親、学校）	22
	自分自身が自立していないと思う	7
	その他	7
	（小 計）	292
2. 少しそう思う	経済的に自立していない、定職についていない	41
	親への依存・実家で親に身の回りのことをやってもらっている	44
	メディアで報じられている	70
	周りの人（知人、家族）に自立していない人がいる	38
	責任感がない、自己中心的、他人任せ、コミュニケーション能力なし	39
	目標、夢がない	7
	少子化や経済状況などが影響している	6
	教育に問題がある（親、学校）	11
	自分自身が自立していないと思う	3
	その他	7
	（小 計）	266
3. あまりそう思わない	自分の周りの若者は自立している	27
	自立していないのは一部の人だけであると思う	8
	昔から自立していない人は一定数いたと思う	7
	その他	9
	（小 計）	51
4. そう思わない	自分の周りの若者は自立している	12
	自立していないのは一部の人だけであると思う	2
	昔から自立していない人は一定数いたと思う	2
	定義、根拠が曖昧	2
	（小 計）	18
5. どちらともいえない	周囲にそのような人がいないので、実感としてわからない	18
	自立の定義が曖昧である	6
	人それぞれ状況が違う	5
	（小 計）	29
無回答	周囲にそのような人がいないので、実感としてわからない	6
	自立の定義が曖昧である、個人差が大きい	2
	仕事そのものがない	4
	親に依存している	1
	（小 計）	13
	合 計	669

※複数回答あり

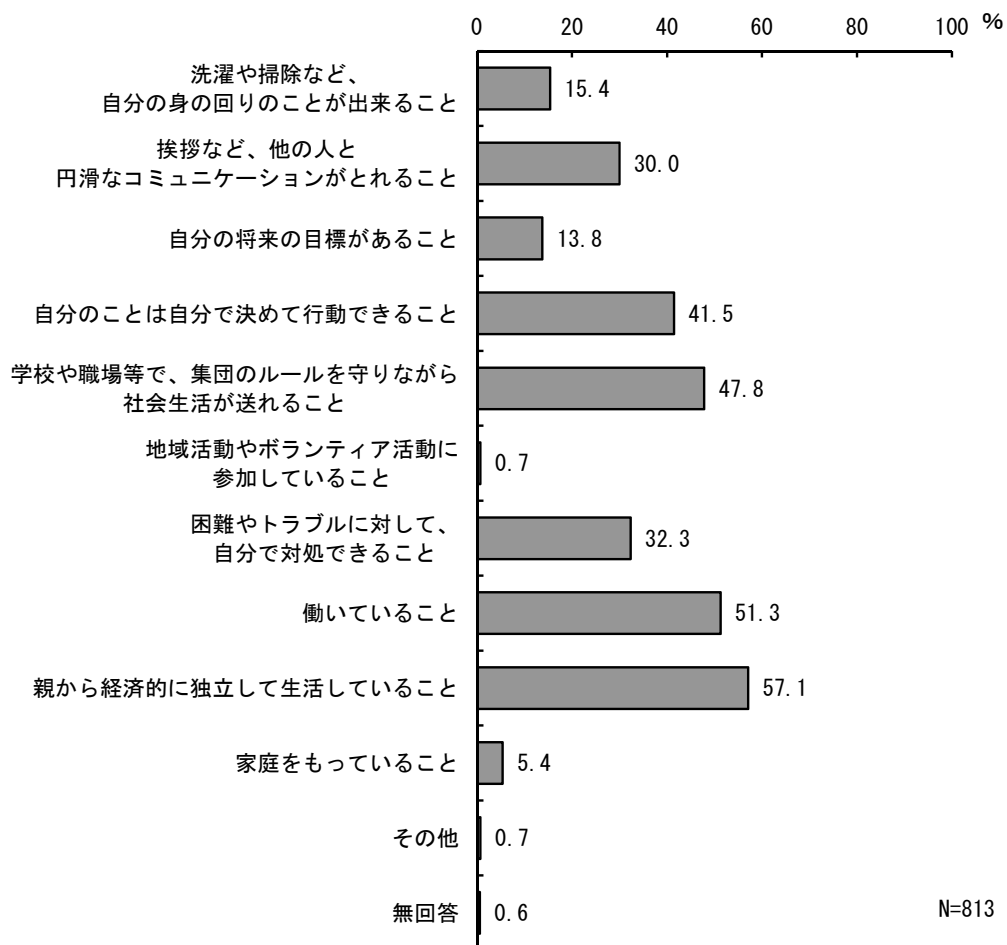
（２）重視する自立した若者の条件

- 重視する自立した若者の条件については、就労しているかどうかは重視されていることがわかる。
- 次いで、社会生活を送る上での意識や行動を挙げている人が多かった。

問３ 重視する自立した若者の条件（３つまで複数回答）

	件数	割合 N=813	割合 (除無回答) N=808
洗濯や掃除など、自分の身の回りのことが出来ること	125	15.4	15.5
挨拶など、他の人と円滑なコミュニケーションがとれること	244	30.0	30.2
自分の将来の目標があること	112	13.8	13.9
自分のことは自分で決めて行動できること	337	41.5	41.7
学校や職場等で、集団のルールを守りながら社会生活が送れること	389	47.8	48.1
地域活動やボランティア活動に参加していること	6	0.7	0.7
困難やトラブルに対して、自分で対処できること	263	32.3	32.5
働いていること	417	51.3	51.6
親から経済的に独立して生活していること	464	57.1	57.4
家庭をもっていること	44	5.4	5.4
その他	6	0.7	0.7
無回答	5	0.6	—
全 体	2,412	—	—

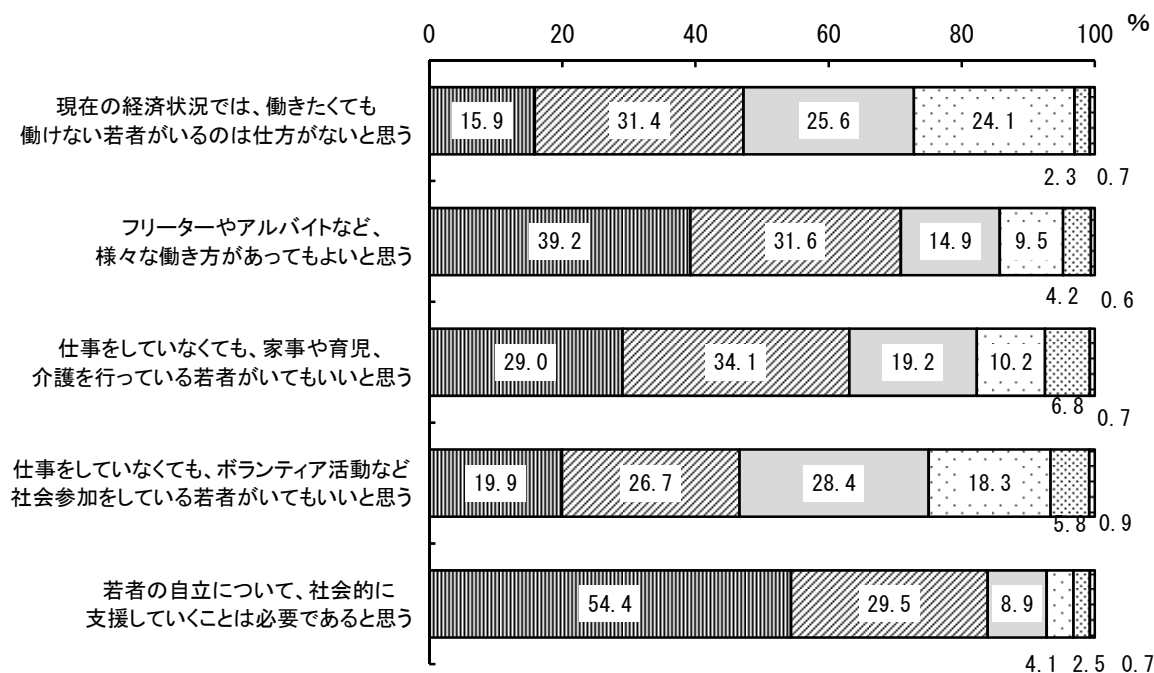
問3 重視する自立した若者の条件（3つまで複数回答）



(3) 若者の就労や社会参加についての考え

○回答者の 8 割以上が若者の自立に向けた社会的支援を支持しており、7 割がフリーターやアルバイトなど多様な働き方を肯定している。

問 4 若者の就労や社会参加についての考え



N=813

□ 思う □ 少し思う □ あまりそう思わない □ そう思わない □ どちらともいえない ■ 無回答

問 4 若者の就労や社会参加についての考え

		そう 思う	少し そう 思う	あまり そう 思 わない	そう 思 わない	どちら とも い えない	無回答	全体
件数	(1) 現在の経済状況では、働きたくても働けない若者がいるのは仕方がないと思う	129	255	208	196	19	6	813
	(2) フリーターやアルバイトなど、様々な働き方があってもよいと思う	319	257	121	77	34	5	813
	(3) 仕事をしていなくても、家事や育児、介護を行っている若者がいてもいいと思う	236	277	156	83	55	6	813
	(4) 仕事をしていなくても、ボランティア活動など社会参加をしている若者がいてもいいと思う	162	217	231	149	47	7	813
	(5) 若者の自立について、社会的に支援していくことは必要であると思う	442	240	72	33	20	6	813
割合	(1) 現在の経済状況では、働きたくても働けない若者がいるのは仕方がないと思う N=813	15.9	31.4	25.6	24.1	2.3	0.7	100.0
	(2) フリーターやアルバイトなど、様々な働き方があってもよいと思う N=813	39.2	31.6	14.9	9.5	4.2	0.6	100.0
	(3) 仕事をしていなくても、家事や育児、介護を行っている若者がいてもいいと思う N=813	29.0	34.1	19.2	10.2	6.8	0.7	100.0
	(4) 仕事をしていなくても、ボランティア活動など社会参加をしている若者がいてもいいと思う N=813	19.9	26.7	28.4	18.3	5.8	0.9	100.0
	(5) 若者の自立について、社会的に支援していくことは必要であると思う N=813	54.4	29.5	8.9	4.1	2.5	0.7	100.0
割合 (除無回答)	(1) 現在の経済状況では、働きたくても働けない若者がいるのは仕方がないと思う N=807	16.0	31.6	25.8	24.3	2.4	—	100.0
	(2) フリーターやアルバイトなど、様々な働き方があってもよいと思う N=808	39.5	31.8	15.0	9.5	4.2	—	100.0
	(3) 仕事をしていなくても、家事や育児、介護を行っている若者がいてもいいと思う N=807	29.2	34.3	19.3	10.3	6.8	—	100.0
	(4) 仕事をしていなくても、ボランティア活動など社会参加をしている若者がいてもいいと思う N=806	20.1	26.9	28.7	18.5	5.8	—	100.0
	(5) 若者の自立について、社会的に支援していくことは必要であると思う N=807	54.8	29.7	8.9	4.1	2.5	—	100.0

■就業状況別にみた 若者の就労や社会参加についての考え

－「(1)現在の経済状況では、働きたくても働けない若者がいるのは仕方がないと思う」について

○就業状況別では「非常勤」「学生」「無職」で肯定的、「常勤」「自営業」では否定的な意見が多い傾向がみられる。

就業状況別（問 14）にみた 若者の就労や社会参加についての考え（問 4(1)）

（「現在の経済状況では、働きたくても働けない若者がいるのは仕方がないと思う」について）

問 4 (1)現在の経済状況では、働きたくても働けない若者がいるのは仕方がないと思う

		全体	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答	そう思う+少しそう思う	あまりそう思わない+そう思わない	どちらともいえない
全 体		813	129	255	208	196	19	6	384	404	19
		100.0	15.9	31.4	25.6	24.1	2.3	0.7	47.2	49.7	2.3
問14	常勤	334	14.1	27.8	26.6	29.3	1.8	0.3	41.9	56.0	1.8
就業状況	非常勤	178	16.9	36.5	25.8	18.0	2.2	0.6	53.4	43.8	2.2
	自営業	34	17.6	20.6	26.5	32.4	2.9	0.0	38.2	58.8	2.9
	主婦・主夫	178	12.9	36.0	28.7	18.5	2.2	1.7	48.9	47.2	2.2
	学生	19	15.8	47.4	10.5	21.1	5.3	0.0	63.2	31.6	5.3
	無職・その他	62	30.6	24.2	16.1	22.6	4.8	1.6	54.8	38.7	4.8
	無回答	8	12.5	25.0	12.5	50.0	0.0	0.0	37.5	62.5	0.0

*5%有意

■年齢別・就業状況別・子育て経験の有無別にみた若者の就労や社会参加についての考え
 ー(2)フリーターやアルバイトなど、様々な働き方があってもよいと思う

○年齢別では若い年齢層、就業状況別では「学生」「無職」、子育て経験の有無別では「ない」人で肯定的な意見が多い傾向がみられる。

年齢別（問13）・就業状況別（問14）、子育て経験別（問16）にみた
 若者の就労や社会参加についての考え（問4(2)）

（「フリーターやアルバイトなど、様々な働き方があってもよいと思う」について）

問4(2)フリーターやアルバイトなど、様々な働き方があってもよいと思う

		全体	そう思う	少しそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	どちらと もいえな い	無回答	そう思う +少しそ う思う	あまりそ う思わな い+そう 思わない	どちらと もいえな い
全 体		813	319	257	121	77	34	5	576	198	34
		100.0	39.2	31.6	14.9	9.5	4.2	0.6	70.8	24.4	4.2
問13 年齢	20～24歳	29	55.2	13.8	17.2	13.8	0.0	0.0	69.0	31.0	0.0
	25～29歳	52	59.6	32.7	3.8	0.0	3.8	0.0	92.3	3.8	3.8
	30～34歳	84	36.9	38.1	15.5	6.0	3.6	0.0	75.0	21.4	3.6
	35～39歳	92	47.8	28.3	14.1	3.3	6.5	0.0	76.1	17.4	6.5
	40～44歳	116	36.2	37.1	12.1	7.8	6.9	0.0	73.3	19.8	6.9
	45～49歳	103	35.0	33.0	20.4	7.8	3.9	0.0	68.0	28.2	3.9
	50～54歳	87	35.6	33.3	17.2	10.3	2.3	1.1	69.0	27.6	2.3
	55～59歳	95	35.8	28.4	14.7	15.8	2.1	3.2	64.2	30.5	2.1
	60歳以上	148	35.1	29.1	14.9	15.5	4.7	0.7	64.2	30.4	4.7
	無回答	7	28.6	28.6	28.6	14.3	0.0	0.0	57.1	42.9	0.0
問14 就業状況	常勤	334	44.6	31.7	13.2	7.8	2.4	0.3	76.3	21.0	2.4
	非常勤	178	34.3	30.3	16.3	11.8	6.7	0.6	64.6	28.1	6.7
	自営業	34	29.4	26.5	29.4	11.8	2.9	0.0	55.9	41.2	2.9
	主婦・主夫	178	29.2	42.7	13.5	9.0	4.5	1.1	71.9	22.5	4.5
	学生	19	47.4	21.1	26.3	5.3	0.0	0.0	68.4	31.6	0.0
	無職・その他	62	58.1	8.1	11.3	12.9	8.1	1.6	66.1	24.2	8.1
	無回答	8	25.0	37.5	25.0	12.5	0.0	0.0	62.5	37.5	0.0
問16 子育て経験	はい	544	35.1	32.7	16.0	11.2	4.2	0.7	67.8	27.2	4.2
	いいえ	259	47.9	29.7	12.4	5.4	4.2	0.4	77.6	17.8	4.2
	無回答	10	40.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	60.0	40.0	0.0

年齢 : *5%有意

就業状況 : **1%有意

子育て経験 : **1%有意

■年齢別・就業状況別・子育て経験の有無別にみた 若者の就労や社会参加についての考え

－(3)「仕事をしていなくても、家事や育児、介護を行っている若者がいてもいいと思う」

- 年齢別では若い年齢層の方が肯定的な意見が多い傾向がみられ、「60歳以上」では否定的な意見が多い。
 ○就業状況別では「学生」「無職」で肯定的な意見が多く、「自営業」では否定的な意見が多い。
 ○子育て経験の有無別では「ない」人で肯定的な意見が多い。

年齢別（問13）、就業状況別（問14）、子育て経験の有無別（問16）にみた
 若者の就労や社会参加についての考え（問4(3)）

（「仕事をしていなくても、家事や育児、介護を行っている若者がいてもいいと思う」について）

問4(3)仕事をしていなくても、家事や育児、介護を行っている若者がいてもいいと思う

		全体	そう思う	少しそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	どちらと もいえな い	無回答	そう思う +少しそ う思う	あまりそ う思わな い+そう 思わない	どちらと もいえな い
全 体		813	236	277	156	83	55	6	513	239	55
		100.0	29.0	34.1	19.2	10.2	6.8	0.7	63.1	29.4	6.8
問13 年齢	20～24歳	29	44.8	27.6	17.2	6.9	3.4	0.0	72.4	24.1	3.4
	25～29歳	52	48.1	30.8	13.5	1.9	5.8	0.0	78.8	15.4	5.8
	30～34歳	84	38.1	35.7	21.4	4.8	0.0	0.0	73.8	26.2	0.0
	35～39歳	92	35.9	34.8	14.1	7.6	7.6	0.0	70.7	21.7	7.6
	40～44歳	116	27.6	37.9	17.2	7.8	9.5	0.0	65.5	25.0	9.5
	45～49歳	103	24.3	35.0	22.3	8.7	9.7	0.0	59.2	31.1	9.7
	50～54歳	87	27.6	36.8	18.4	13.8	2.3	1.1	64.4	32.2	2.3
	55～59歳	95	25.3	30.5	17.9	16.8	7.4	2.1	55.8	34.7	7.4
	60歳以上	148	17.6	32.4	24.3	14.9	8.8	2.0	50.0	39.2	8.8
	無回答	7	28.6	28.6	14.3	14.3	14.3	0.0	57.1	28.6	14.3
問14 就業状況	常勤	334	32.3	34.4	19.8	9.0	4.2	0.3	66.8	28.7	4.2
	非常勤	178	24.2	36.0	22.5	11.2	5.6	0.6	60.1	33.7	5.6
	自営業	34	26.5	20.6	20.6	23.5	8.8	0.0	47.1	44.1	8.8
	主婦・主夫	178	24.7	35.4	16.9	11.2	9.6	2.2	60.1	28.1	9.6
	学生	19	47.4	10.5	31.6	5.3	5.3	0.0	57.9	36.8	5.3
	無職・その他	62	33.9	37.1	9.7	4.8	14.5	0.0	71.0	14.5	14.5
	無回答	8	25.0	37.5	12.5	12.5	12.5	0.0	62.5	25.0	12.5
	無回答	8	25.0	37.5	12.5	12.5	12.5	0.0	62.5	25.0	12.5
問16 子育て経験	はい	544	26.5	33.8	20.2	11.9	6.4	1.1	60.3	32.2	6.4
	いいえ	259	34.0	34.7	17.4	6.6	7.3	0.0	68.7	23.9	7.3
	無回答	10	40.0	30.0	10.0	10.0	10.0	0.0	70.0	20.0	10.0

年齢 : **1%有意

就業状況 : *5%有意

子育て経験 : **1%有意

■男女別・年齢別・就業状況別・子育て経験の有無別にみた 若者の就労や社会参加についての考え

－(4)「仕事をしていなくても、ボランティア活動など社会参加をしている若者がいてもいいと思う」

○男女別では男性で、年齢別では20歳代で、就業状況別では「学生」「無職」で、子育て経験の有無別では「ない」人で肯定的な意見が多い傾向がみられる。
○就業状況別では「自営業」で、子育て経験の有無別では「ある」人で否定的な意見が多い傾向がみられる。

男女別（問12）、年齢別（問13）、就業状況別（問14）、
子育て経験の有無別（問16）にみた 若者の就労や社会参加についての考え（問4(4)）
（「仕事をしていなくても、ボランティア活動など社会参加をしている若者がいてもいいと思う」について）

問4(4)仕事をしていなくても、ボランティア活動など社会参加をしている

		全体	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答	そう思う+少しそう思う	あまりそう思わない+そう思わない	どちらともいえない
全 体		813	162	217	231	149	47	7	379	380	47
		100.0	19.9	26.7	28.4	18.3	5.8	0.9	46.6	46.7	5.8
問12 性別	男性	334	26.6	27.5	22.5	18.9	4.2	0.3	54.2	41.3	4.2
	女性	467	15.4	26.1	33.2	17.6	6.4	1.3	41.5	50.7	6.4
	無回答	12	8.3	25.0	8.3	33.3	25.0	0.0	33.3	41.7	25.0
問13 年齢	20～24歳	29	44.8	24.1	10.3	17.2	3.4	0.0	69.0	27.6	3.4
	25～29歳	52	30.8	36.5	25.0	3.8	3.8	0.0	67.3	28.8	3.8
	30～34歳	84	26.2	33.3	27.4	10.7	2.4	0.0	59.5	38.1	2.4
	35～39歳	92	22.8	27.2	32.6	12.0	5.4	0.0	50.0	44.6	5.4
	40～44歳	116	15.5	29.3	30.2	13.8	11.2	0.0	44.8	44.0	11.2
	45～49歳	103	20.4	21.4	28.2	20.4	9.7	0.0	41.7	48.5	9.7
	50～54歳	87	18.4	21.8	36.8	17.2	3.4	2.3	40.2	54.0	3.4
	55～59歳	95	17.9	28.4	22.1	26.3	3.2	2.1	46.3	48.4	3.2
	60歳以上	148	11.5	23.0	29.7	29.1	4.7	2.0	34.5	58.8	4.7
	無回答	7	14.3	28.6	14.3	28.6	14.3	0.0	42.9	42.9	14.3
問14 就業状況	常勤	334	23.4	29.6	25.7	16.5	4.2	0.6	53.0	42.2	4.2
	非常勤	178	15.7	25.3	34.3	19.7	4.5	0.6	41.0	53.9	4.5
	自営業	34	20.6	17.6	20.6	35.3	5.9	0.0	38.2	55.9	5.9
	主婦・主夫	178	12.4	25.8	34.3	17.4	7.9	2.2	38.2	51.7	7.9
	学生	19	26.3	31.6	15.8	26.3	0.0	0.0	57.9	42.1	0.0
	無職・その他	62	33.9	21.0	17.7	14.5	12.9	0.0	54.8	32.3	12.9
	無回答	8	12.5	25.0	25.0	25.0	12.5	0.0	37.5	50.0	12.5
問16 子育て経験	はい	544	16.9	24.4	32.0	20.4	5.0	1.3	41.4	52.4	5.0
	いいえ	259	25.9	31.7	21.6	13.5	7.3	0.0	57.5	35.1	7.3
	無回答	10	30.0	20.0	10.0	30.0	10.0	0.0	50.0	40.0	10.0

性別 : **1%有意

年齢 : **1%有意

就業状況 : **1%有意

子育て経験 : **1%有意

■年齢別・就業状況別にみた 若者の就労や社会参加についての考え

－(5)「若者の自立について、社会的に支援していくことは必要であると思う」

- 年齢別では 50 歳代以上で、就業状況別では「非常勤」「主婦・主夫」で肯定的な意見が多い傾向がみられる。
- 「自営業」では、他の就業状況の人と比べて、否定的な意見がやや多い傾向がみられる。

年齢別（問 13）、就業状況別（問 14）にみた 若者の就労や社会参加についての考え（問 4(5)）

（「若者の自立について、社会的に支援していくことは必要であると思う」について）

問 4 (5) 若者の自立について、社会的に支援していくことは必要であると思う

		全体	そう思う	少しそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	どちらと もいえな い	無回答	そう思う +少しそ う思う	あまりそ う思わな い+そう 思わない	どちらと もいえな い
全 体		813	442	240	72	33	20	6	682	105	20
		100.0	54.4	29.5	8.9	4.1	2.5	0.7	83.9	12.9	2.5
問13 年齢	40歳代以下	476	50.0	31.1	10.3	5.0	3.6	0.0	81.1	15.3	3.6
	50歳代以上	330	60.3	27.6	7.0	2.7	0.6	1.8	87.9	9.7	0.6
	無回答	7	71.4	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	85.7	0.0	14.3
問14 就業状況	常勤	334	52.1	30.5	9.3	5.1	2.7	0.3	82.6	14.4	2.7
	非常勤	178	58.4	26.4	10.1	2.8	1.1	1.1	84.8	12.9	1.1
	自営業	34	41.2	20.6	20.6	14.7	2.9	0.0	61.8	35.3	2.9
	主婦・主夫	178	58.4	30.9	6.2	1.7	1.1	1.7	89.3	7.9	1.1
	学生	19	36.8	42.1	15.8	5.3	0.0	0.0	78.9	21.1	0.0
	無職・その他	62	53.2	32.3	3.2	3.2	8.1	0.0	85.5	6.5	8.1
	無回答	8	75.0	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	87.5	0.0	12.5

年齢 : **1%有意

就業状況 : **1%有意

■問4の回答状況による分析

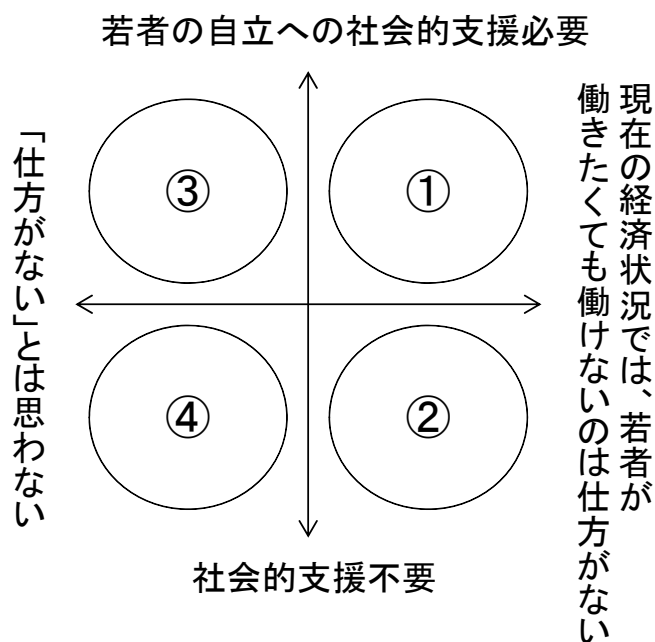
○若者を取り巻く環境の認識と、若者の自立支援に対する考えの関連性をみるために、問4 (1)「現在の経済状況では、働きたくても働けない若者がいるのは仕方がないと思う」と (5)「若者の自立について、社会的に支援していくことは必要であると思う」への回答状況をもとに、回答者 813 名を下記の4つのグループに分類した。

グループ①：社会環境要因、社会的支援の必要性をともに支持しているグループ

グループ②：社会環境要因は肯定しつつも社会的支援は不要とするグループ

グループ③：社会環境要因は否定しつつも何らかの社会的支援は必要とするグループ

グループ④：社会環境要因も社会的支援も否定しているグループ



	社会環境要因	社会支援	該当件数 (件)	構成比 (%)
グループ①	○	○	345	42.4
グループ②	○	×	33	4.1
グループ③	×	○	319	39.2
グループ④	×	×	73	9.0
	△	○	16	2.0
	△	×	1	0.1
	○	△	7	0.9
	×	△	11	1.4
	どちらか・または両方「無回答」		8	1.0
			813	100.0

○：「そう思う」または「少しそう思う」

×：「そう思わない」または「あまりそう思わない」

△：「どちらともいえない」

○グループ①～④の年齢構成では、グループ②、グループ④では20～40歳代の割合が高く、グループ①、グループ③は50歳代以上の割合が4割以上を占めている。

グループ①～④別にみた 年齢構成（問13）

	20-49歳	50歳以上	無回答	合計
①（N=345）	59.1%	40.3%	0.6%	100.0%
②（N= 33）	72.7%	27.3%	0.0%	100.0%
③（N=319）	53.9%	44.8%	1.3%	100.0%
④（N =73）	69.9%	30.1%	0.0%	100.0%

*5%有意

○グループ別の就業状況では、グループ②では「常勤」の割合が低く、「自営業」「学生」「無職」の割合が他と比べて高くなっている。
○グループ④では「常勤」の割合が半数を超えており、「常勤」「非常勤」の割合が高くなっている。

グループ①～④別にみた 就業状況（問14）

	常勤	非常勤	自営業	主婦主夫	学生	無職 その他	無回答	合計
①（N=345）	37.7%	25.2%	2.0%	22.6%	2.9%	8.7%	0.9%	100.0%
②（N= 33）	24.2%	18.2%	15.2%	24.2%	6.1%	12.1%	0.0%	100.0%
③（N=319）	44.2%	18.8%	4.1%	23.8%	1.3%	6.6%	1.3%	100.0%
④（N =73）	53.4%	23.3%	9.6%	8.2%	2.7%	2.7%	0.0%	100.0%

**1%有意

○グループ別の暮らし向きでは、グループ②は「下」と感じている人が4分の1を占めている。
○グループ④では「上」と感じている人の割合が、他と比べてやや高い。

グループ①～④別にみた 暮らし向き（問18）

	上の上	上の中	上の下	中の上	中の中	中の下	下の上	下の中	下の下	無回答
①（N=345）	0.0%	2.9%	4.1%	26.7%	38.3%	13.3%	7.8%	3.5%	2.3%	1.2%
②（N= 33）	0.0%	0.0%	6.1%	18.2%	30.3%	21.2%	12.1%	6.1%	6.1%	0.0%
③（N=319）	0.6%	2.2%	5.3%	27.6%	41.7%	13.2%	5.3%	2.2%	0.0%	1.9%
④（N =73）	0.0%	4.1%	6.8%	28.8%	28.8%	20.5%	4.1%	4.1%	2.7%	0.0%

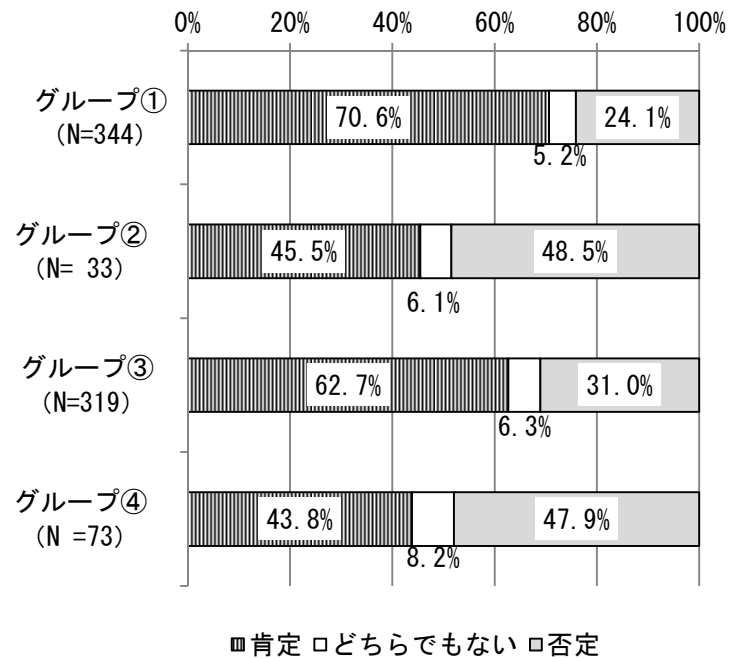
〈再集計〉

	上	中	下
①（N=345）	7.0%	78.3%	13.6%
②（N= 33）	6.1%	69.7%	24.2%
③（N=319）	8.2%	82.4%	7.5%
④（N =73）	11.0%	78.1%	11.0%

*5%有意

○「仕事をしていなくても、家事や育児、介護を行っている若者がいてもいいと思う」については、グループ①、グループ③では肯定的な意見の割合が高く、グループ②、グループ④では肯定的な意見と否定的な意見が拮抗している。

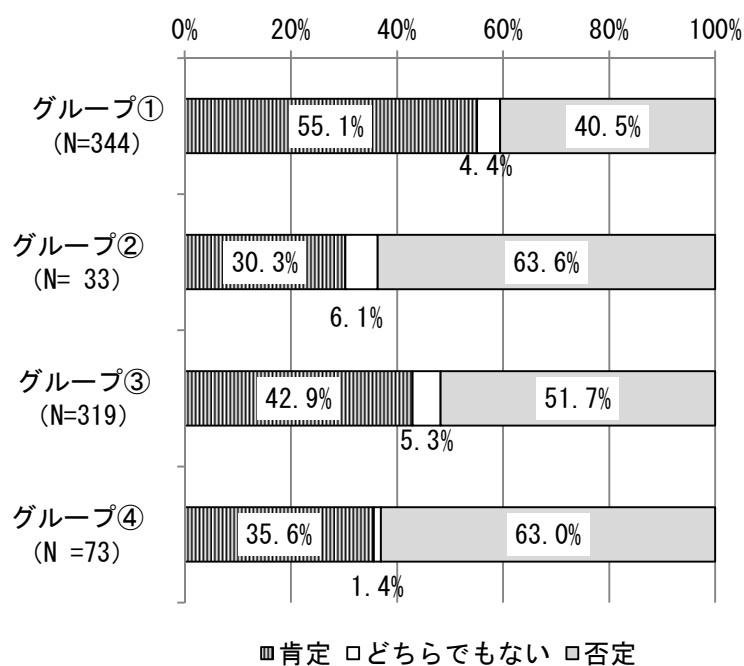
グループ①～④別にみた 家事・育児・介護について（問4(3)）



※「肯定」＝「そう思う」または「少しそう思う」
「否定」＝「そう思わない」または「あまりそう思わない」
**1%有意

○「仕事をしていなくても、ボランティアなど社会参加をしている若者がいてもいいと思う」についての考え方では、グループ①では肯定的な意見の割合が半数以上となっているが、グループ②～④では否定的な意見の割合の方が多く、特にグループ②、グループ④では6割以上となっている。

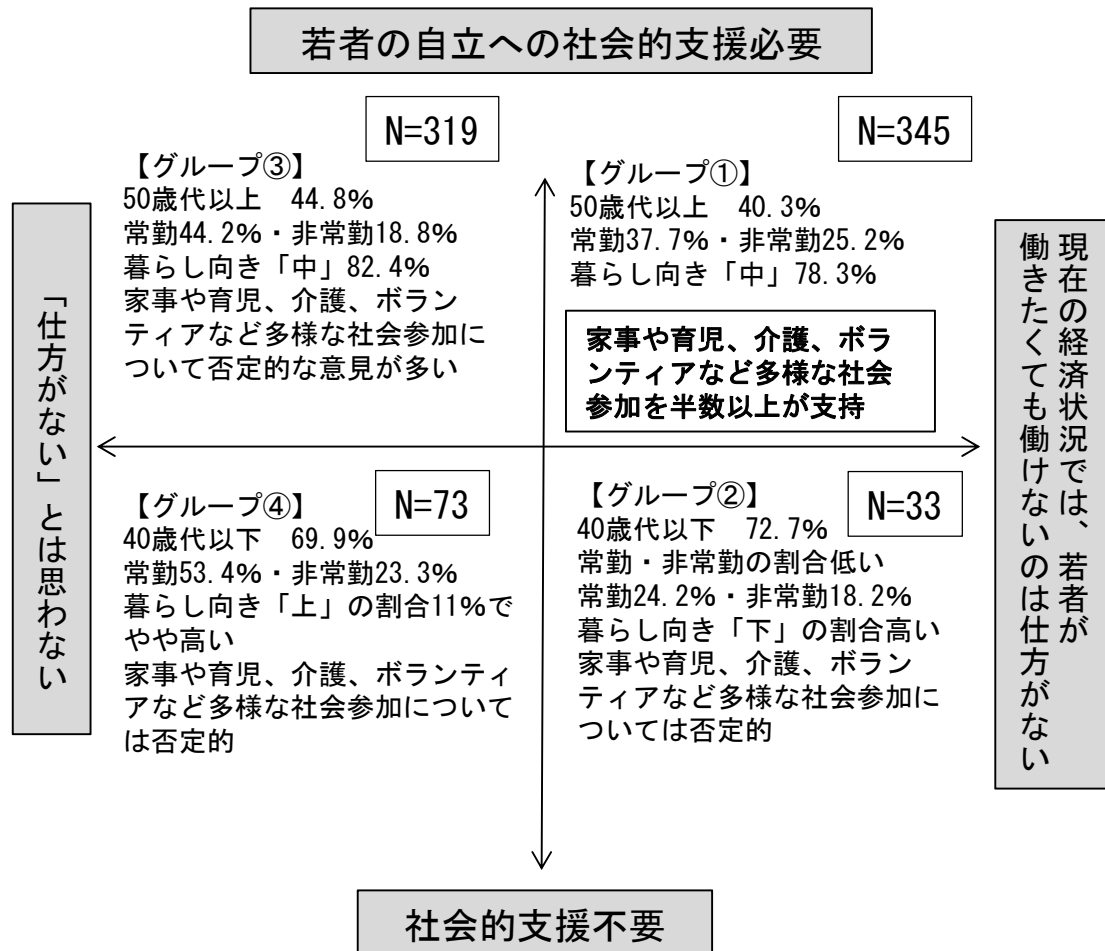
グループ①～④別にみた ボランティア活動等の社会参加について（問 4(4)）



※「肯定」＝「そう思う」または「少しそう思う」
「否定」＝「そう思わない」または「あまりそう思わない」
**1%有意

○若者の自立に対する社会的支援を支持しているグループは50歳代以上の割合が高く、40歳代以下では社会的支援への支持が低く、多様な社会参加についても否定的であることがうかがえた。また「現在の経済状況では、若者が働きたくても働けないのは仕方ないとは思わない」という考えを示しているグループは、常勤で働いており暮らし向きが高い傾向がみられた。

問4分類：グループ①～④の特徴

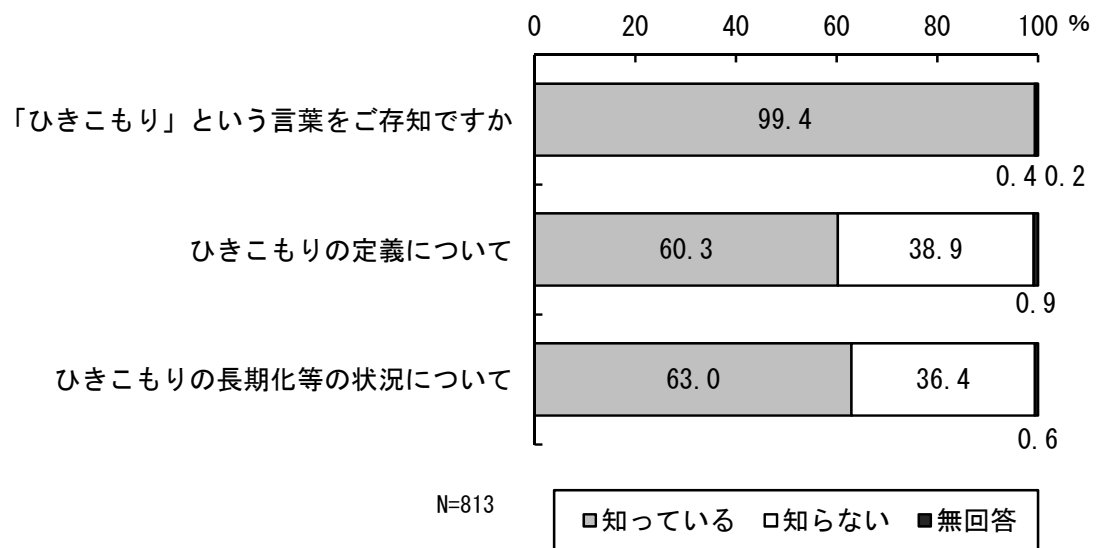


2) 「ひきこもり」の認知について

(1) ひきこもりの状況の認知

○「ひきこもり」という言葉についてはほぼ全員が認知しており、ひきこもりの定義については 60.3%、ひきこもりの長期化等の状況については 63.0%が認知している。

問5 ひきこもりの状況の認知



問 5 ひきこもりの状況の認知

		知っている	知らない	無回答	全体
件数	(1) 「ひきこもり」という言葉をご存知ですか	808	3	2	813
	(2) 「ひきこもり」とは、「仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6ヶ月以上続けて自宅にひきこもっている状態」のことであり、時々買い物などで外出することもあるという場合も「ひきこもり」に含める、ということをご存知ですか	490	316	7	813
	(3) ひきこもりの長期化や、社会に出た後にひきこもりになってしまうケースがあり、30歳代、40歳代のひきこもりの人が増えている、ということをご存知ですか	512	296	5	813
割合	(1) 「ひきこもり」という言葉をご存知ですか N=813	99.4	0.4	0.2	100.0
	(2) 「ひきこもり」とは、「仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6ヶ月以上続けて自宅にひきこもっている状態」のことであり、時々買い物などで外出することもあるという場合も「ひきこもり」に含める、ということをご存知ですか N=813	60.3	38.9	0.9	100.0
	(3) ひきこもりの長期化や、社会に出た後にひきこもりになってしまうケースがあり、30歳代、40歳代のひきこもりの人が増えている、ということをご存知ですか N=813	63.0	36.4	0.6	100.0
(除無回答)	(1) 「ひきこもり」という言葉をご存知ですか N=811	99.6	0.4	—	100.0
	(2) 「ひきこもり」とは、「仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6ヶ月以上続けて自宅にひきこもっている状態」のことであり、時々買い物などで外出することもあるという場合も「ひきこもり」に含める、ということをご存知ですか N=806	60.8	39.2	—	100.0
	(3) ひきこもりの長期化や、社会に出た後にひきこもりになってしまうケースがあり、30歳代、40歳代のひきこもりの人が増えている、ということをご存知ですか N=808	63.4	36.6	—	100.0

■男女別・年齢別・子育ての経験の有無別にみた ひきこもりの定義の認知について

- 男女別では、「女性」の方が認知度が高い。
 ○年齢別にみると、年齢が上がるほど認知度が高い傾向がみられ、特に「60歳以上」では74.3%が認知している状況である。
 ○子育ての経験の有無別では、「ある」人の方が認知度が高い。

男女別（問12）、年齢別（問13）、子育て経験の有無別（問16）にみた
 ひきこもりの定義の認知について（問5(2)）

問5(2)「ひきこもり」の定義について

		全体	知っている	知らない	無回答
全 体		813	490	316	7
		100.0	60.3	38.9	0.9
問12 性別	男性	334	54.8	44.6	0.6
	女性	467	64.5	34.5	1.1
	無回答	12	50.0	50.0	0.0
問13 年齢	20～24歳	29	48.3	51.7	0.0
	25～29歳	52	51.9	48.1	0.0
	30～34歳	84	41.7	58.3	0.0
	35～39歳	92	46.7	52.2	1.1
	40～44歳	116	66.4	33.6	0.0
	45～49歳	103	63.1	36.9	0.0
	50～54歳	87	57.5	41.4	1.1
	55～59歳	95	67.4	29.5	3.2
	60歳以上	148	74.3	24.3	1.4
	無回答	7	71.4	28.6	0.0
問16 子育て経験	はい	544	62.9	36.0	1.1
	いいえ	259	54.4	45.2	0.4
	無回答	10	70.0	30.0	0.0

性別 : **1%有意
 年齢 : **1%有意
 子育て経験 : *5%有意

■年齢別・子育ての経験の有無別にみた ひきこもりの状況の認知について

○年齢別にみると、20歳代、30歳代の若い年齢層よりも40歳代以上の年齢層で認知度が高い傾向がみられる。特に「50～54歳」では73.6%が「知っている」と回答している。
○子育ての経験の有無別にみると、「ある」人の方が認知度が高い。

年齢別（問13）、子育て経験の有無別（問16）にみた
ひきこもりの状況の認知について（問5(3)）

問5(3)ひきこもりの状況について

		全体	知っている	知らない	無回答
全 体		813	512	296	5
		100.0	63.0	36.4	0.6
問13 年齢	20～24歳	29	44.8	55.2	0.0
	25～29歳	52	51.9	48.1	0.0
	30～34歳	84	57.1	42.9	0.0
	35～39歳	92	52.2	46.7	1.1
	40～44歳	116	70.7	29.3	0.0
	45～49歳	103	67.0	33.0	0.0
	50～54歳	87	73.6	25.3	1.1
	55～59歳	95	66.3	32.6	1.1
	60歳以上	148	63.5	35.1	1.4
	無回答	7	57.1	42.9	0.0
問16 子育て経験	はい	544	65.1	34.2	0.7
	いいえ	259	58.7	40.9	0.4
	無回答	10	60.0	40.0	0.0

年齢 : **1%有意

子育て経験 : *5%有意

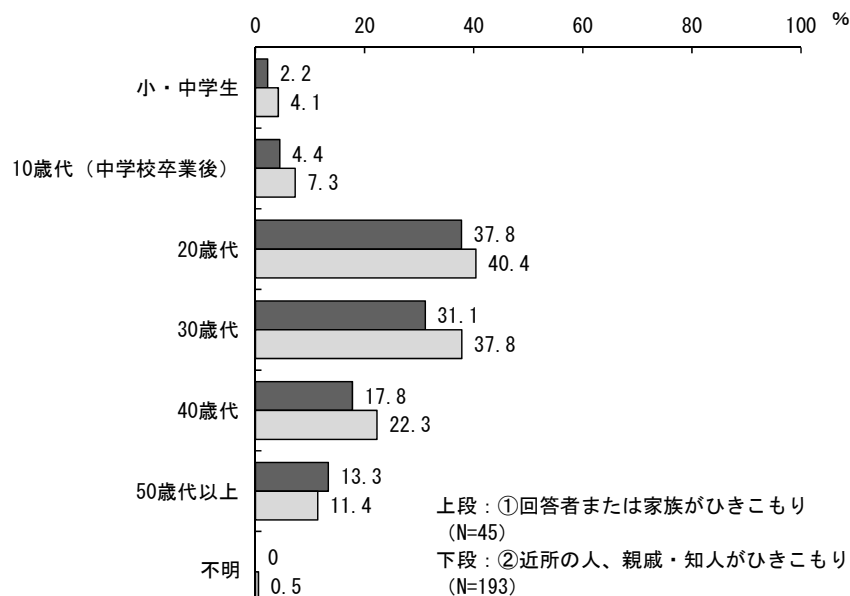
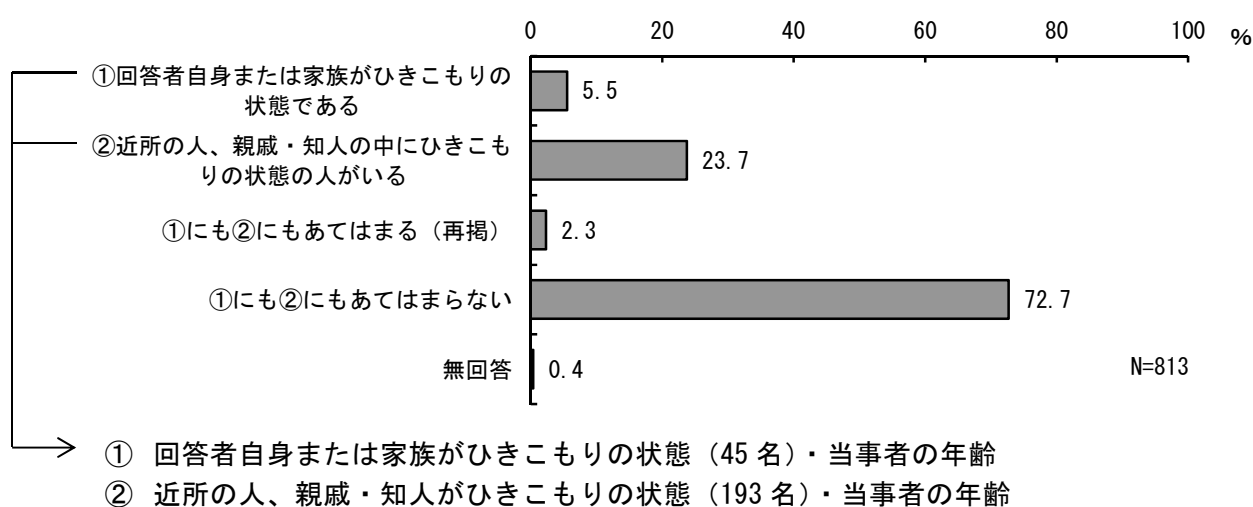
3) 回答者の周辺におけるひきこもりの方の有無

○回答者自身または家族がひきこもりの状態であると回答した人は5.5% (45人) である。
ひきこもりの状態にある方の年齢は20歳代、30歳代が68.9%であった。少数ではあるが、小・中学生や10歳代、40歳代以上の人もいる。

○近所の人、親戚・知人の中にひきこもりの状態の人がいると回答した人は23.7%であった。ひきこもり状態の人の年齢については、20歳代、30歳代が78.2%であった。

○問6の(1)または(2)いずれかに「はい」と回答した人は、219人で回答者全体の26.9%、(1)、(2)ともに「はい」と回答した人は19人であった。

回答者の周辺におけるひきこもりの方の有無



(複数回答)

問 6 (1) 自分自身または家族の中にひきこもりの状態の人がいるか

	件数	割合 N=813	割合 (除無回答) N=809
はい	45	5.5	5.6
いいえ	764	94.0	94.4
無回答	4	0.5	—
全 体	813	100.0	100.0

問 6 (1) ひきこもりの状態の人の年齢（回答者自身または家族）

	件数	割合 N=45	割合 (除無回答) N=45
小・中学生	1	2.2	2.2
10歳代（中学校卒業後）	2	4.4	4.4
20歳代	17	37.8	37.8
30歳代	14	31.1	31.1
40歳代	8	17.8	17.8
50歳代以上	6	13.3	13.3
無回答	0	0.0	—
全 体	48	—	—

問 6 (2) 近所の人、親戚・知人の中にひきこもりの状態の人がいるか

	件数	割合 N=813	割合 (除無回答) N=796
はい	193	23.7	24.2
いいえ	603	74.2	75.8
無回答	17	2.1	—
全 体	813	100.0	100.0

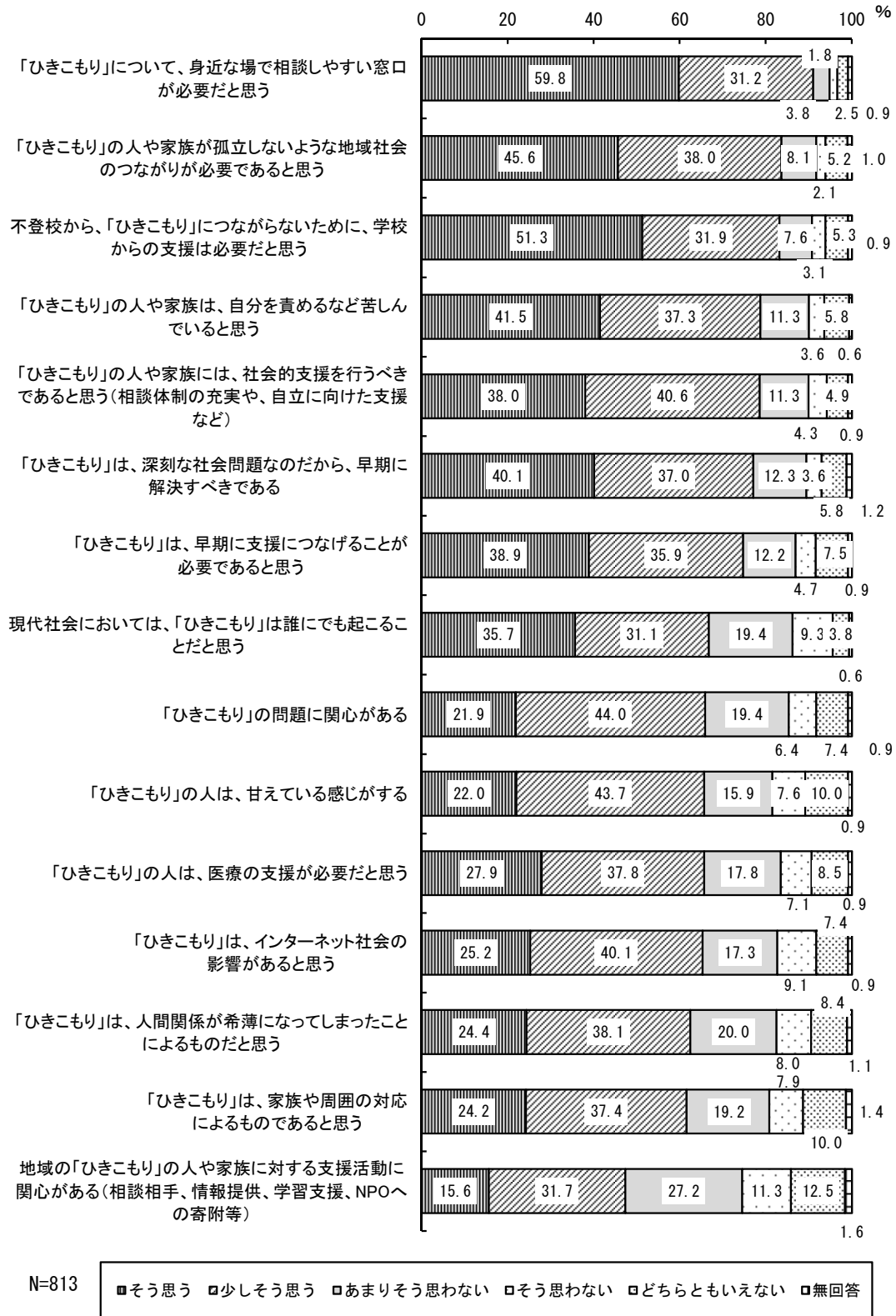
問 6 (2) ひきこもりの状態の人の年齢（近所の人、親戚・知人）

	件数	割合 N=193	割合 (除無回答) N=193
小・中学生	8	4.1	4.1
10歳代（中学校卒業後）	14	7.3	7.3
20歳代	78	40.4	40.4
30歳代	73	37.8	37.8
40歳代	43	22.3	22.3
50歳代以上	22	11.4	11.4
不明	1	0.5	0.5
無回答	0	0.0	—
全 体	239	—	—

4)「ひきこもり」の背景、「ひきこもり」に対する考え、社会的支援等について

- 「ひきこもりの人や家族への社会的支援の必要性」について7割以上の人が肯定しており、「ひきこもりについて、身近な場で相談しやすい窓口が必要」については9割以上が肯定している。
- 全体的にみると、回答者のひきこもり問題に対する関心は高く、「本人、家族は苦しんでいると思う」など共感性も高いことがうかがえる。社会的支援の必要性についても高い割合の人が支持しており、特に「身近な相談窓口」「学校段階からの支援」については、半数以上が「そう思う」と回答している。

問7 「ひきこもり」の背景、「ひきこもり」に対する考え、社会的支援等について



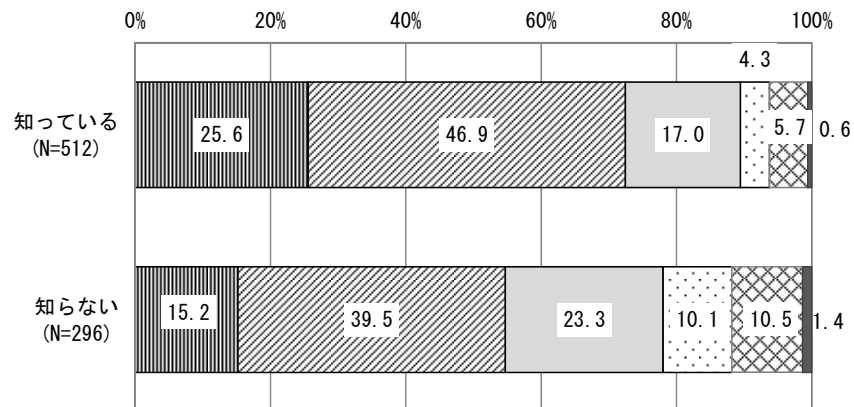
問7 「ひきこもり」の背景、「ひきこもり」に対する考え、社会的支援等について

		そう 思う	少しそ う思う	あまり そう思 わない	そう思 わない	どちら ともい えない	無回答	全体
件数	(1) 「ひきこもり」について、身近な場で相談し やすい窓口が必要だと思う	486	254	31	15	20	7	813
	(2) 「ひきこもり」の人や家族が孤立しないよう な地域社会のつながりが必要であると思う	371	309	66	17	42	8	813
	(3) 不登校から、「ひきこもり」につながらない ために、学校からの支援は必要だと思う	417	259	62	25	43	7	813
	(4) 「ひきこもり」の人や家族は、自分を責める など苦しんでいると思う	337	303	92	29	47	5	813
	(5) 「ひきこもり」の人や家族には、社会的支援を行う べきであると思う（相談体制の充実や、自立に向け た支援など）	309	330	92	35	40	7	813
	(6) 「ひきこもり」は、深刻な社会問題なのだから 、早期に解決すべきである	326	301	100	29	47	10	813
	(7) 「ひきこもり」は、早期に支援につなげるこ とが必要であると思う	316	292	99	38	61	7	813
	(8) 現代社会においては、「ひきこもり」は誰に でも起こることだと思う	290	253	158	76	31	5	813
	(9) 「ひきこもり」の問題に関心がある	178	358	158	52	60	7	813
	(10) 「ひきこもり」の人は、甘えている感じがす る	179	355	129	62	81	7	813
	(11) 「ひきこもり」の人は、医療の支援が必要だ と思う	227	307	145	58	69	7	813
	(12) 「ひきこもり」は、インターネット社会の影 響があると思う	205	326	141	74	60	7	813
	(13) 「ひきこもり」は、人間関係が希薄になっ てしまったことによるものだと思う	198	310	163	65	68	9	813
	(14) 「ひきこもり」は、家族や周囲の対応による ものであると思う	197	304	156	64	81	11	813
	(15) 地域の「ひきこもり」の人や家族に対する支援活動 に関心がある（相談相手、情報提供、学習支援、 NPOへの寄附等）	127	258	221	92	102	13	813
割合	(1) 「ひきこもり」について、身近な場で相談し やすい窓口が必要だと思う N=813	59.8	31.2	3.8	1.8	2.5	0.9	100.0
	(2) 「ひきこもり」の人や家族が孤立しないよう な地域社会のつながりが必要であると思う N=813	45.6	38.0	8.1	2.1	5.2	1.0	100.0
	(3) 不登校から、「ひきこもり」につながらない ために、学校からの支援は必要だと思う N=813	51.3	31.9	7.6	3.1	5.3	0.9	100.0
	(4) 「ひきこもり」の人や家族は、自分を責める など苦しんでいると思う N=813	41.5	37.3	11.3	3.6	5.8	0.6	100.0
	(5) 「ひきこもり」の人や家族には、社会的支援を行う べきであると思う（相談体制の充実や、自立に向け た支援など） N=813	38.0	40.6	11.3	4.3	4.9	0.9	100.0
	(6) 「ひきこもり」は、深刻な社会問題なのだから 、早期に解決すべきである N=813	40.1	37.0	12.3	3.6	5.8	1.2	100.0
	(7) 「ひきこもり」は、早期に支援につなげるこ とが必要であると思う N=813	38.9	35.9	12.2	4.7	7.5	0.9	100.0
	(8) 現代社会においては、「ひきこもり」は誰に でも起こることだと思う N=813	35.7	31.1	19.4	9.3	3.8	0.6	100.0
	(9) 「ひきこもり」の問題に関心がある N=813	21.9	44.0	19.4	6.4	7.4	0.9	100.0
	(10) 「ひきこもり」の人は、甘えている感じがす る N=813	22.0	43.7	15.9	7.6	10.0	0.9	100.0
	(11) 「ひきこもり」の人は、医療の支援が必要だ と思う N=813	27.9	37.8	17.8	7.1	8.5	0.9	100.0
	(12) 「ひきこもり」は、インターネット社会の影 響があると思う N=813	25.2	40.1	17.3	9.1	7.4	0.9	100.0
	(13) 「ひきこもり」は、人間関係が希薄になっ てしまったことによるものだと思う N=813	24.4	38.1	20.0	8.0	8.4	1.1	100.0
	(14) 「ひきこもり」は、家族や周囲の対応による ものであると思う N=813	24.2	37.4	19.2	7.9	10.0	1.4	100.0
	(15) 地域の「ひきこもり」の人や家族に対する支援活動 に関心がある（相談相手、情報提供、学習支援、 NPOへの寄附等） N=813	15.6	31.7	27.2	11.3	12.5	1.6	100.0

■「ひきこもり」の状況の認知、「ひきこもり」の身近さ別にみた問題への関心について

○問 5 で把握したひきこもりの状況の認知の有無別に、(1) ひきこもりの問題への関心をみたところ、ひきこもりの状況を知っている人では、知らない人と比べてひきこもりの問題への関心が高い。

ひきこもりの状況の認知の有無別（問 5(3)）にみた
「ひきこもり」の問題への関心（問 7(1)）



■そう思う □少しそう思う □あまりそう思わない □そう思わない □どちらともいえない ■無回答

ひきこもりの状況の認知の有無別（問 5(3)）にみた
「ひきこもり」の問題への関心（問 7(1)）

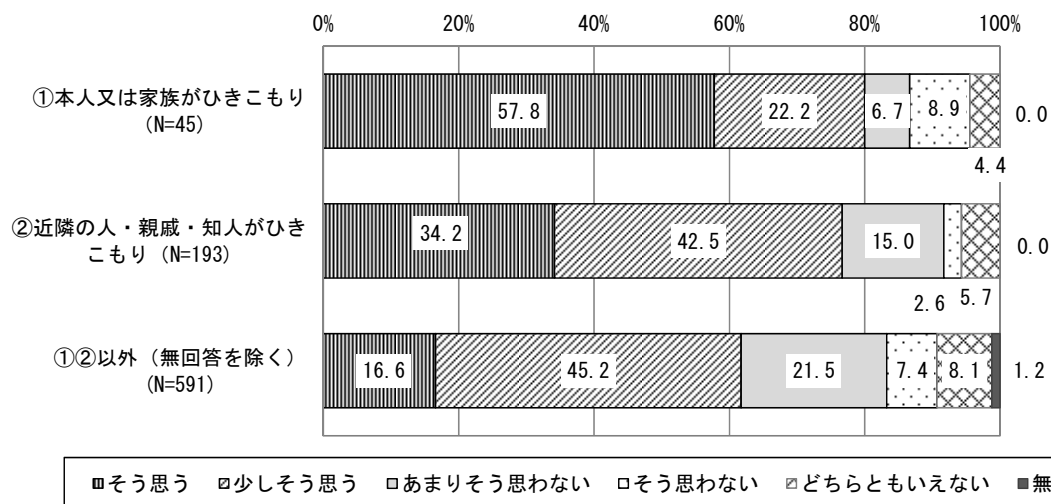
問 7 (1) 「ひきこもり」の問題に関心がある

		全体	そう思う	少しそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	どちらと もいえな い	無回答
全 体		813	178	358	158	52	60	7
		100.0	21.9	44.0	19.4	6.4	7.4	0.9
問 5 (3) ひきこもりの長期化 等の状況について	知っている	512	25.6	46.9	17.0	4.3	5.7	0.6
	知らない	296	15.2	39.5	23.3	10.1	10.5	1.4
	無回答	5	40.0	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0

*5%有意

○問 6 で把握したひきこもりの状況の人が身近にいるかどうかの回答状況別にみたところ、「ひきこもり」の問題への関心については、本人又は家族、近隣の人・親戚・知人にひきこもりの人がいる人では、そうでない人と比べて「そう思う」の割合が高い。特に本人又は家族がひきこもりの人では、「そう思う」が 57.8%となっている。

ひきこもりの身近さ別（問 6(1)(2)）にみた
「ひきこもり」の問題への関心（問 7(1)）



ひきこもりの身近さ別（問 6(1)(2)）にみた
「ひきこもり」の問題への関心（問 7(1)）

問 7(1)「ひきこもり」の問題に関心がある

		全体	そう思う	少しそう 思う	あまりそ う思わな	そう思わ ない	どちらと もいえな	無回答
全 体		813	178	358	158	52	60	7
		100.0	21.9	44.0	19.4	6.4	7.4	0.9
問 6 (1)	はい	45	57.8	22.2	6.7	8.9	4.4	0.0
本人又は家族	いいえ	764	19.5	45.4	20.3	6.3	7.6	0.9
	無回答	4	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
問 6 (2)	はい	193	34.2	42.5	15.0	2.6	5.7	0.0
近隣の人・親戚 知人	いいえ	603	17.7	44.6	21.1	7.8	7.8	1.0
	無回答	17	29.4	41.2	11.8	0.0	11.8	5.9
問 6 (1)(2)	はい	219	35.6	41.1	14.2	3.7	5.5	0.0
※重複を除く	いいえ	591	16.6	45.2	21.5	7.4	8.1	1.2
	無回答	3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0

問 6(1) : **1%有意
問 6 (2) : **1%有意
問 6 (1)(2) : **1%有意

■「ひきこもり」の身近さ別にみた ひきこもりの状況が誰にでも起こることかどうかについて

○本人や家族にひきこもりの状況の人がいる人では、「そう思う」の割合が 64.4%である。
○ひきこもりの状況の人がいない人では、「そう思う」は 33.8%である。

ひきこもりの身近さ別（問 6(1)）にみた
ひきこもりの状況が誰にでも起こることかどうかについて（問 7(6)）

問 7(6) 現代社会においては、「ひきこもり」は誰にでも起こることだと思う

		全体	そう思う	少しそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	どちらと もいえな い	無回答
全 体		813	290	253	158	76	31	5
		100.0	35.7	31.1	19.4	9.3	3.8	0.6
問 6(1)	はい	45	64.4	17.8	8.9	6.7	2.2	0.0
本人又は家族	いいえ	764	33.8	31.9	20.2	9.6	3.9	0.7
	無回答	4	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0

*5%有意

■「ひきこもり」の身近さ別にみた 社会的支援の必要性について

○近隣・親戚・知人にひきこもりの状況の人がいる人では、「そう思う」の割合は 46.6%である。
○近隣・親戚・知人にひきこもりの状況の人がいない人では、「そう思う」の割合は 34.8%である。

ひきこもりの身近さ別（問 6(2)）にみた 社会的支援の必要性について（問 7(9)）

問 7(9) 「ひきこもり」の人や家族には、社会的支援を行うべきであると思う
(相談体制の充実や、自立に向けた支援など)

		全体	そう思う	少しそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	どちらと もいえな い	無回答
全 体		813	309	330	92	35	40	7
		100.0	38.0	40.6	11.3	4.3	4.9	0.9
問 6(2)	はい	193	46.6	35.2	12.4	2.6	3.1	0.0
近隣の人・親戚 知人	いいえ	603	34.8	42.8	11.1	4.8	5.5	1.0
	無回答	17	52.9	23.5	5.9	5.9	5.9	5.9

*5%有意

■「ひきこもり」の身近さ別にみた 地域社会のつながりの必要性について

○近隣・親戚・知人にひきこもりの状況の人がいる人では、いない人に比べて「そう思う」の割合がやや高い。

ひきこもりの身近さ別(問6(2))にみた 地域社会のつながりの必要性について(問7(13))

問7(13)「ひきこもり」の人や家族が孤立しないような地域社会のつながりが必要であると思う

		全体	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答
全 体		813	371	309	66	17	42	8
		100.0	45.6	38.0	8.1	2.1	5.2	1.0
問6(2)	はい	193	54.4	31.6	6.7	2.1	5.2	0.0
近隣の人・親戚	いいえ	603	42.3	40.8	8.6	2.2	5.1	1.0
知人	無回答	17	64.7	11.8	5.9	0.0	5.9	11.8

**1%有意

■「ひきこもり」の状況の認知、「ひきこもり」の身近さ別にみた 身近な相談窓口の必要性

○ひきこもりの状況の認知の有無別にみると、いずれも身近な相談窓口を必要と感じている人の割合が高く、特にひきこもりの状況を知っている人では「そう思う」の割合がやや高くなっている。

ひきこもりの状況の認知の有無別(問5(3))にみた 身近な相談窓口の必要性(問7(14))

問7(14)「ひきこもり」について、身近な場で相談しやすい窓口が必要だと思う

		全体	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答
全 体		813	486	254	31	15	20	7
		100.0	59.8	31.2	3.8	1.8	2.5	0.9
問5(3) ひきこもりの長期化等の状況について	知っている	512	61.9	30.9	4.1	1.8	1.0	0.4
	知らない	296	55.7	32.1	3.4	2.0	5.1	1.7
	無回答	5	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0

*5%有意

○近隣の人・親戚・知人にひきこもりがいる人で「そう思う」の割合が高く 71.5%である。

ひきこもりの身近さ別（問 6(2)）にみた 身近な相談窓口の必要性（問 7(14)）

問 7(14)「ひきこもり」について、身近な場で相談しやすい窓口が必要だと思う

		全体	そう思う	少しそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	どちらと もいえな い	無回答
全 体		813	486	254	31	15	20	7
		100.0	59.8	31.2	3.8	1.8	2.5	0.9
問 6(2)	はい	193	71.5	22.8	2.6	1.0	2.1	0.0
近隣の人・親戚	いいえ	603	56.2	34.0	4.1	2.2	2.5	1.0
知人	無回答	17	52.9	29.4	5.9	0.0	5.9	5.9

*5%有意

■「ひきこもり」の状況の認知、「ひきこもり」の身近さ別にみた 支援活動への関心

○ひきこもりの状況を認知している人の方が、「そう思う」の割合が高い。

ひきこもりの状況の認知の有無別（問 5(3)）にみた 支援活動への関心（問 7(15)）

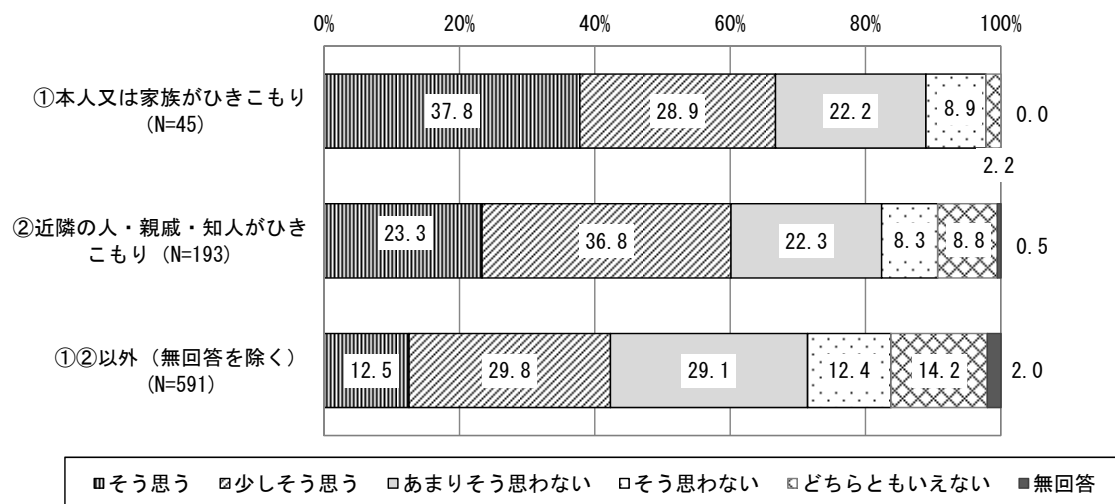
問 7(15)地域の「ひきこもり」の人や家族に対する支援活動に関心がある
(相談相手、情報提供、学習支援、NPOへの寄附等)

		全体	そう思う	少しそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	どちらと もいえな い	無回答
全 体		813	127	258	221	92	102	13
		100.0	15.6	31.7	27.2	11.3	12.5	1.6
問 5(3) ひきこもりの長期化 等の状況について	知っている	512	18.4	33.2	26.2	10.4	10.7	1.2
	知らない	296	10.8	28.4	29.4	13.2	15.9	2.4
	無回答	5	20.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0

*5%有意

○本人や家族・身の周りにひきこもりの状況の人がいる人の方が、「そう思う」の割合が高い。

ひきこもりの身近さ別（問6(1)(2)）にみた 支援活動への関心（問7(15)）



ひきこもりの身近さ別（問6(1)(2)）にみた 支援活動への関心（問7(15)）

問7(15) 地域の「ひきこもり」の人や家族に対する支援活動に関心がある
(相談相手、情報提供、学習支援、NPOへの寄附等)

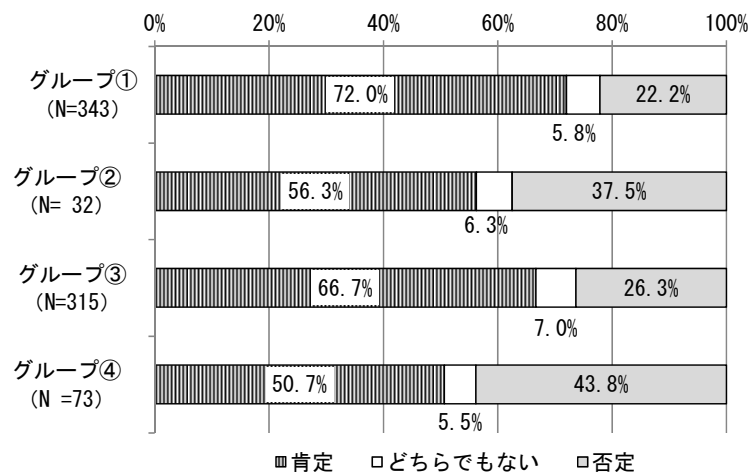
		全体	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答
全 体		813	127	258	221	92	102	13
		100.0	15.6	31.7	27.2	11.3	12.5	1.6
問6(1)	はい	45	37.8	28.9	22.2	8.9	2.2	0.0
本人又は家族	いいえ	764	14.4	31.5	27.6	11.5	13.2	1.7
	無回答	4	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
問6(2)	はい	193	23.3	36.8	22.3	8.3	8.8	0.5
近隣の人・親戚・知人	いいえ	603	13.3	29.7	28.9	12.4	13.9	1.8
	無回答	17	11.8	47.1	23.5	5.9	5.9	5.9
問6(1)(2)	はい	219	24.2	36.1	22.4	8.7	8.2	0.5
※重複を除く	いいえ	591	12.5	29.8	29.1	12.4	14.2	2.0
	無回答	3	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(1)、(2)、(1)(2)とも：**1%有意

■問 4 の回答グループ別にみた 「ひきこもり」の背景、「ひきこもり」に対する考え、社会的支援等について

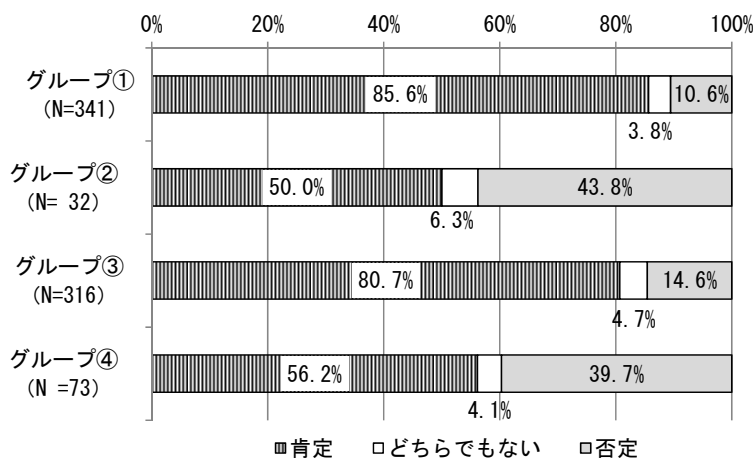
○全体的にみるとグループ①、③は、ひきこもりへの関心が高く、問題の早期解決、社会的支援の必要性についても肯定的な意見をもっており、半数以上が支援活動へも関心をもっている。グループ①と③の違いは、ひきこもりの要因に対する考え方で、グループ①の方が「誰にでも起こること」とする人が多く、「甘えている」とする人が少ない。一方、グループ②、④ではひきこもりに対する関心が低く、社会的支援について否定的な意見が過半数である。グループ②と④の違いは、グループ④の方が、全体的にひきこもりの問題に対して否定的な意見の割合が高いことと、「誰にでも起こることではない」、「甘えている感じがする」など個人的な問題と捉えている人が多いことであり、当事者や家族への支援活動に対する関心も低くなっている。

グループ①～④別にみた ひきこもり問題への関心（問 7(1)）



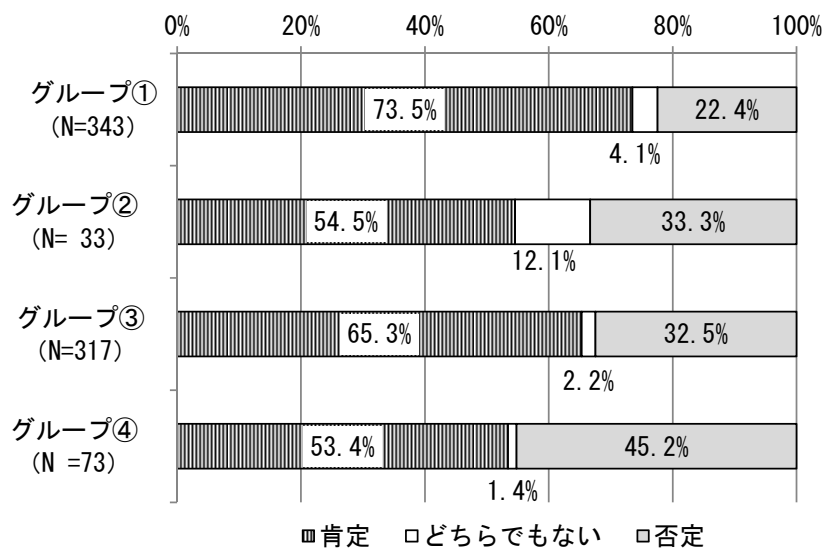
**1%有意

グループ①～④別にみた 早期解決について（問 7(2)）



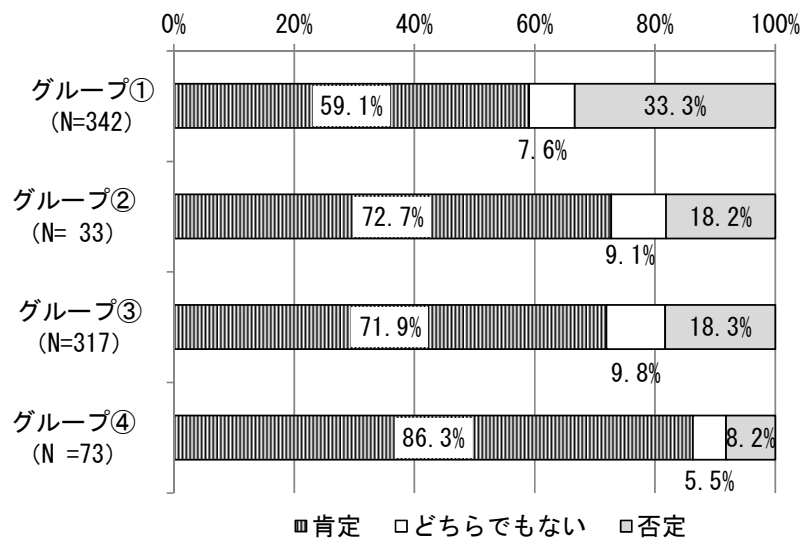
**1%有意

グループ①～④別にみた 誰にでも起こることかどうか（問7(6)）



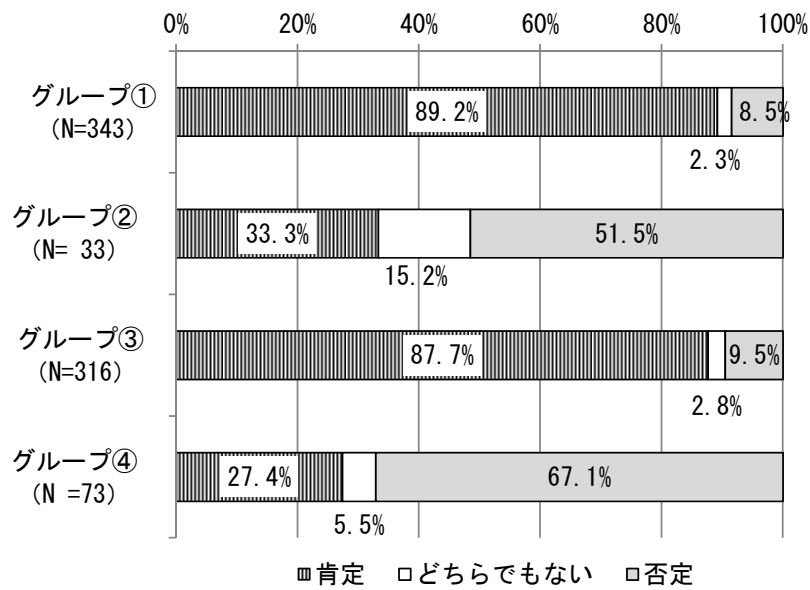
**1%有意

グループ①～④別にみた 甘えている感じがするかどうか（問7(8)）



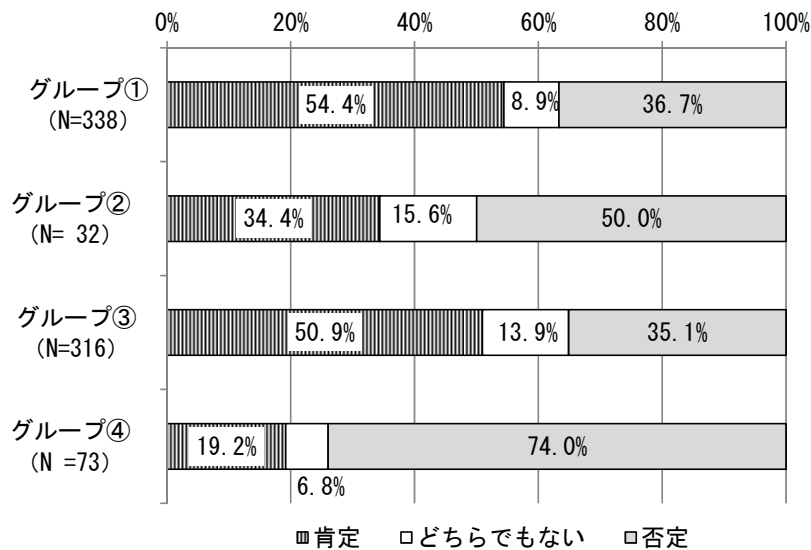
**1%有意

グループ①～④別にみた 社会的支援の必要性について（問7(9)）



**1%有意

グループ①～④別にみた 支援活動への関心について（問7(15)）



**1%有意

■問 7 への回答パターンによる分析

- 性別、就業状況、子育ての経験の有無、居住形態、家族形態、身近なひきこもり状況の人の有無等により、ひきこもりに対する意識の違いが顕在化している。
- 問 7 の回答状況をクラスター分析した結果、回答者は以下の 5 つのグループに分類された。

問 7 の回答パターンの分析・整理

	件数(件)	上段：回答状況の特徴／下段：グループの属性の特徴／ 下段：身近なひきこもりの人の割合
グループ A	N=214	全体的にひきこもりの方への社会的支援を支持、(15)支援活動への関心は 88.3%が肯定。「(8)ひきこもりは甘えている感じがする」は 67.3%が肯定。 【属性】女性 62.9%。「常勤」37.4%で最も低い。「非常勤」24.3%、「主婦」23.8%。 【身近な人がひきこもり】27.6%
グループ B	N=181	全体的にはひきこもりの方への社会的支援は支持だが、(1)ひきこもり問題への関心についてはある人となない人が半々。(15)支援活動への関心は肯定 16%で低い。 【属性】女性が 66.5%で最も高い。「非常勤」26.1%で最も高い。「常勤」37.8%。「夫婦のみ」が 21.5%で最も多い。「単身」も 11.6%でグループ C に次いで高い。 【身近な人がひきこもり】16.0%
グループ C	N=169	全体的にひきこもりの方への社会的支援に否定的。「(8)ひきこもりは甘えている感じがする」は 71.6%が肯定。(15)支援活動への関心は 11.3%で低い。 【属性】男性が 55.4%で最も高い。「常勤」が 52.7%で最も高い。「主婦」13.0%で最も低い。「単身」14.8%で最も高い。「子育て経験あり」が 59.3%で最も低い。居住形態「賃貸」26.0%で最も高い。 【身近な人がひきこもり】19.5%
グループ D	N=110	全体的にひきこもりの方への社会的支援は支持だが、「(6)誰にでも起こることである」について、肯定層は 6.3%で低い。 【属性】「常勤」47.6%で高い。「非常勤」が 12.4%で最も低い。「主婦」25.7%。「子育て経験あり」が 77.4%で最も高い。「単身」6.4%で最も低い。 【身近な人がひきこもり】27.3%
グループ E	N=105	全体的にひきこもりの方への社会的支援を支持。「(4)人間関係が希薄になってしまったことによるもの」について、「そう思う」2.9%で低い。「(8)甘えている感じがする」は「そう思う」7.6%で低い。(15)支援活動への関心は「そう思う」が 31.4%で高い。 【属性】「主婦」26.7%で最も高い。「子育て経験あり」が 71.4%。「持ち家」78.1%で最も高い。 【身近な人がひきこもり】35.2%

性別、就業状況、家族構成、子育て経験、住まいの形態：**1%有意

■ (15) 地域のひきこもりへの支援活動に関心がある人の属性について

○50 歳代女性と 60 歳代以上の男女で関心が高い傾向、就労状況では「学生」「主婦・主夫」で関心が高い傾向がみられる。

年齢・性別（問 12・問 13）にみた 地域のひきこもりへの支援活動への関心（問 7(15)）

問 7 (15) 地域の「ひきこもり」の人や家族に対する支援活動に関心がある
(相談相手、情報提供、学習支援、NPOへの寄附等)

		全体	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答	そう思う+少し そう思う	あまり そう思 わない+ そう思 わない	どちら ともい えない
全 体		813	127	258	221	92	102	13	385	313	102
		100.0	15.6	31.7	27.2	11.3	12.5	1.6	47.4	38.5	12.5
問12性別	20歳代男性	37	13.5	29.7	27.0	21.6	5.4	2.7	43.2	48.6	5.4
問13年齢	20歳代女性	44	13.6	36.4	22.7	20.5	6.8	0.0	50.0	43.2	6.8
	30歳代男性	72	11.1	33.3	29.2	18.1	8.3	0.0	44.4	47.2	8.3
	30歳代女性	102	13.7	26.5	34.3	6.9	17.6	1.0	40.2	41.2	17.6
	40歳代男性	90	16.7	21.1	35.6	11.1	13.3	2.2	37.8	46.7	13.3
	40歳代女性	128	16.4	32.8	25.0	9.4	14.8	1.6	49.2	34.4	14.8
	50歳代男性	78	12.8	24.4	25.6	19.2	15.4	2.6	37.2	44.9	15.4
	50歳代女性	104	19.2	39.4	25.0	2.9	13.5	0.0	58.7	27.9	13.5
	60歳代以上男性	57	12.3	43.9	21.1	15.8	7.0	0.0	56.1	36.8	7.0
	60歳代以上女性	89	22.5	33.7	22.5	5.6	11.2	4.5	56.2	28.1	11.2
	無回答	12	8.3	33.3	25.0	8.3	16.7	8.3	41.7	33.3	16.7

*5%有意

**就業状況（問 14）、暮らし向き別（問 18）にみた
地域のひきこもりへの支援活動への関心（問 7(15)）**

（相談相手、情報提供、学習支援、NPOへの寄附等）

問 7 (15)地域の「ひきこもり」の人や家族に対する支援活動に関心がある

		全体	そう思う	少しそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	どちらと もいえな い	無回答	そう思う +少しそ う思う	あまりそ う思わな い+そう 思わない	どちらと もいえな い
全 体		813	127	258	221	92	102	13	385	313	102
		100.0	15.6	31.7	27.2	11.3	12.5	1.6	47.4	38.5	12.5
問14 就業状況	常勤	334	12.0	32.0	28.1	16.2	11.4	0.3	44.0	44.3	11.4
	非常勤	178	17.4	30.3	29.2	3.9	15.2	3.9	47.8	33.1	15.2
	自営業	34	20.6	26.5	32.4	17.6	2.9	0.0	47.1	50.0	2.9
	主婦・主夫	178	18.0	37.6	23.6	5.6	14.0	1.1	55.6	29.2	14.0
	学生	19	21.1	31.6	26.3	21.1	0.0	0.0	52.6	47.4	0.0
	無職・その他	62	19.4	21.0	24.2	16.1	16.1	3.2	40.3	40.3	16.1
	無回答	8	12.5	25.0	25.0	12.5	12.5	12.5	37.5	37.5	12.5
問18 暮らし向き	上の上	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
	上の中	20	25.0	30.0	30.0	15.0	0.0	0.0	55.0	45.0	0.0
	上の下	38	21.1	23.7	21.1	26.3	7.9	0.0	44.7	47.4	7.9
	中の上	212	13.7	35.8	29.7	9.9	10.4	0.5	49.5	39.6	10.4
	中の中	316	15.2	33.5	26.6	8.9	13.9	1.9	48.7	35.4	13.9
	中の下	115	13.9	34.8	28.7	11.3	9.6	1.7	48.7	40.0	9.6
	下の上	56	19.6	19.6	17.9	16.1	21.4	5.4	39.3	33.9	21.4
	下の中	29	10.3	17.2	37.9	13.8	20.7	0.0	27.6	51.7	20.7
	下の下	14	28.6	21.4	7.1	28.6	14.3	0.0	50.0	35.7	14.3
	無回答	11	18.2	18.2	36.4	0.0	18.2	9.1	36.4	36.4	18.2
(再掲)	上	60	23.3	25.0	25.0	21.7	5.0	0.0	48.3	46.7	5.0
	中	643	14.5	34.5	28.0	9.6	12.0	1.4	49.0	37.6	12.0
	下	99	18.2	19.2	22.2	17.2	20.2	3.0	37.4	39.4	20.2

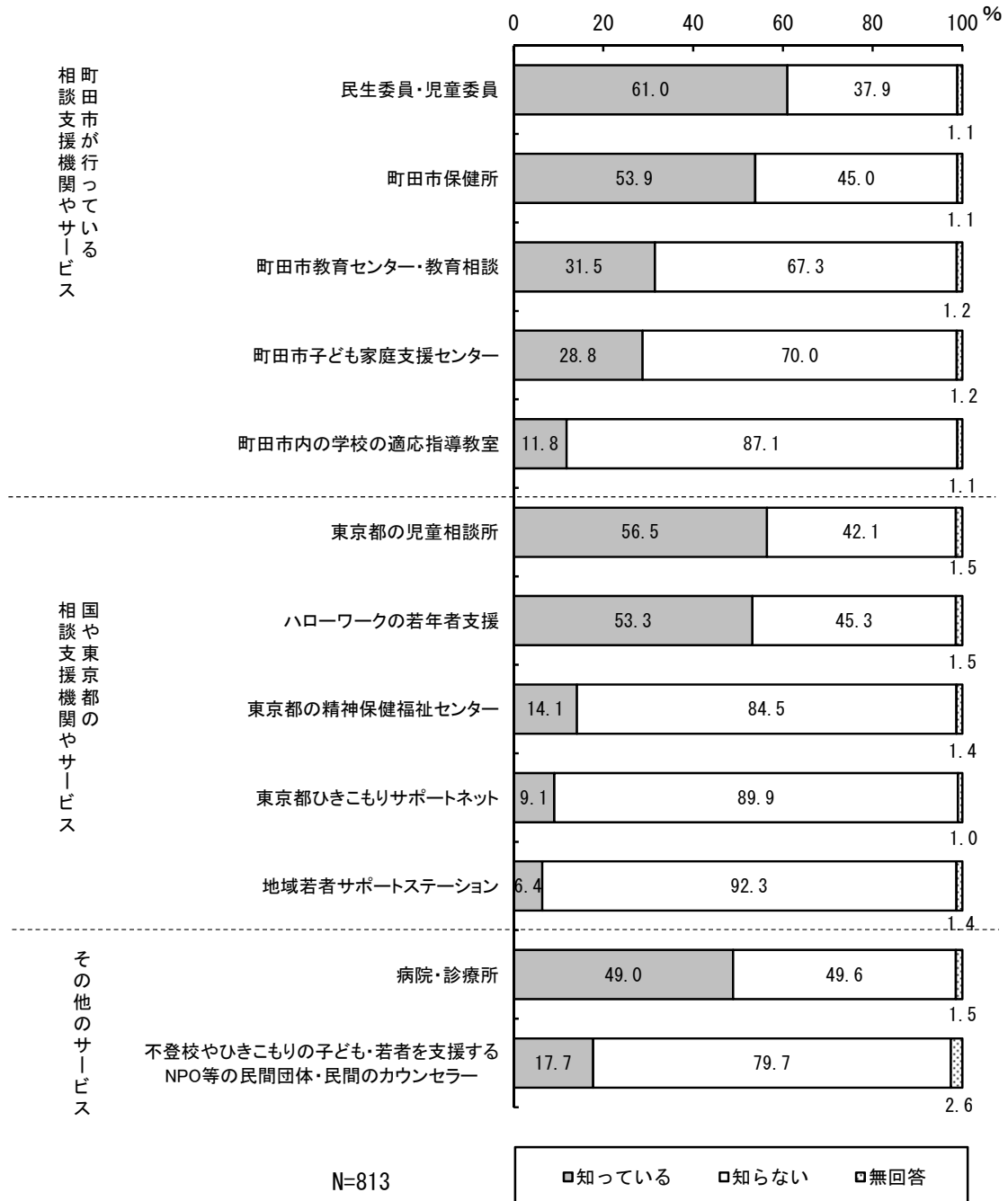
就業状況　：*5%有意

暮らし向き　：*5%有意

5)「ひきこもり」に関する相談支援機関やサービスについて

○認知度が概ね半数を超えているサービスや機関は「民生委員・児童委員」「児童相談所」「保健所」「ハローワークの若年者支援」「病院・診療所」である。
 ○一方、認知度が低かったのは、「東京都ひきこもりサポートネット」(9.1%)、「地域若者サポートステーション」(6.4%)であった。

問 8① 「ひきこもり」に関する相談支援機関やサービスについて（認知度）

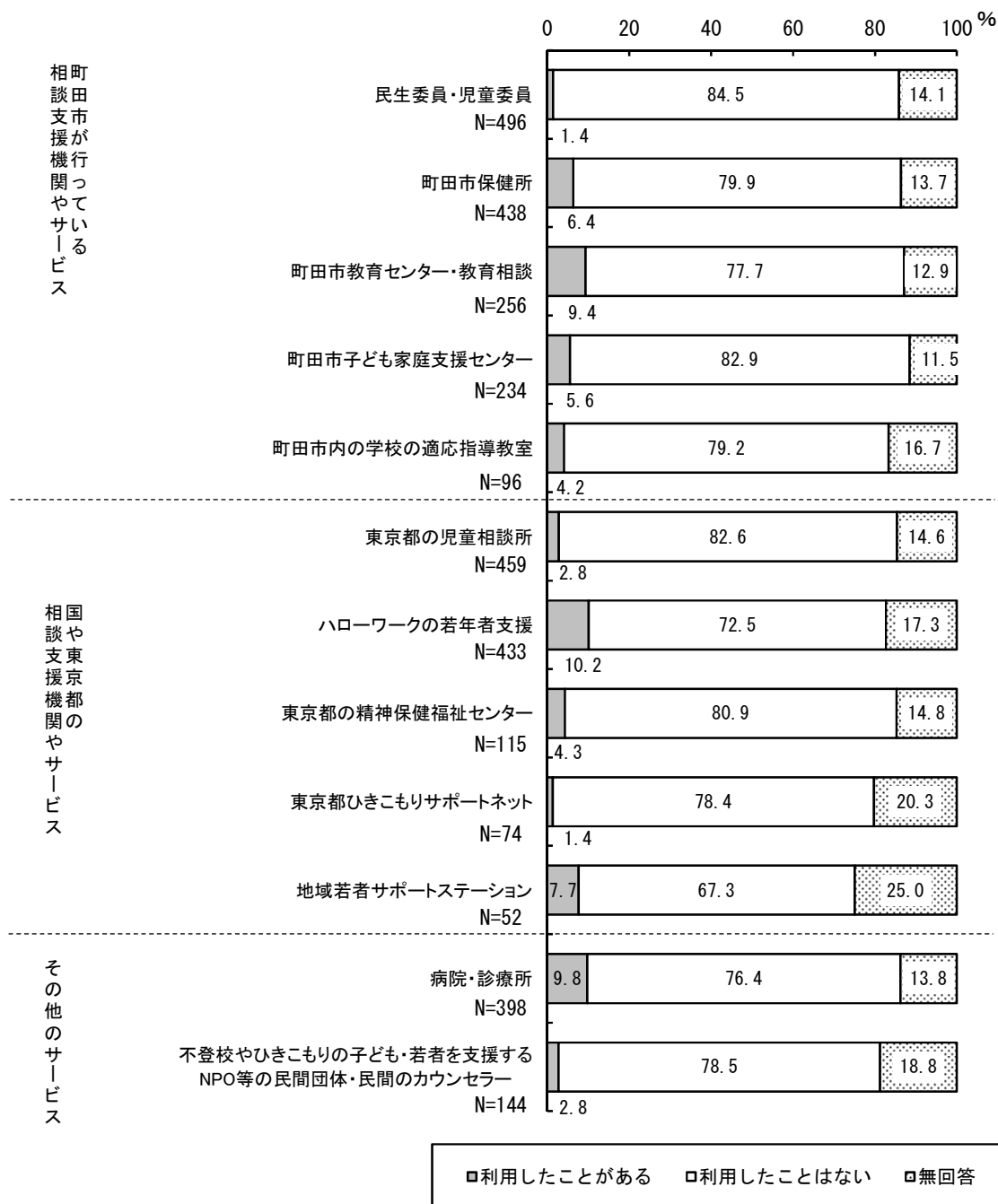


問 8① 「ひきこもり」に関する相談支援機関やサービスについて（認知度）

			知っている	知らない	無回答	全体
件数	町田市が行っている相談支援機関やサービス	(1) 民生委員・児童委員	496	308	9	813
		(2) 町田市保健所	438	366	9	813
		(3) 町田市教育センター・教育相談	256	547	10	813
		(4) 町田市子ども家庭支援センター	234	569	10	813
		(5) 町田市内の学校の適応指導教室	96	708	9	813
	国や東京都の相談支援機関やサービス	(6) 東京都の児童相談所	459	342	12	813
		(7) ハローワークの若年者支援	433	368	12	813
		(8) 東京都の精神保健福祉センター	115	687	11	813
		(9) 東京都ひきこもりサポートネット	74	731	8	813
		(10) 地域若者サポートステーション	52	750	11	813
	その他のサービス	(11) 病院・診療所	398	403	12	813
		(12) 不登校やひきこもりの子ども・若者を支援するNPO等の民間団体・民間のカウンセラー	144	648	21	813
割合	町田市が行っている相談支援機関やサービス	(1) 民生委員・児童委員 N=813	61.0	37.9	1.1	100.0
		(2) 町田市保健所 N=813	53.9	45.0	1.1	100.0
		(3) 町田市教育センター・教育相談 N=813	31.5	67.3	1.2	100.0
		(4) 町田市子ども家庭支援センター N=813	28.8	70.0	1.2	100.0
		(5) 町田市内の学校の適応指導教室 N=813	11.8	87.1	1.1	100.0
	国や東京都の相談支援機関やサービス	(6) 東京都の児童相談所 N=813	56.5	42.1	1.5	100.0
		(7) ハローワークの若年者支援 N=813	53.3	45.3	1.5	100.0
		(8) 東京都の精神保健福祉センター N=813	14.1	84.5	1.4	100.0
		(9) 東京都ひきこもりサポートネット N=813	9.1	89.9	1.0	100.0
		(10) 地域若者サポートステーション N=813	6.4	92.3	1.4	100.0
	その他のサービス	(11) 病院・診療所 N=813	49.0	49.6	1.5	100.0
		(12) 不登校やひきこもりの子ども・若者を支援するNPO等の民間団体・民間のカウンセラー N=813	17.7	79.7	2.6	100.0

○実際にサービスを利用したという人は、回答者全体でみると少ないが、12項目中最も多かったのは「ハローワークの若年者支援」で44名であった。これは、「ハローワークの若年者支援」を「知っている」と回答した人433名の10.2%にあたる。次いで「病院・診療所」(39名)、「町田市保健所」(28名)、「町田市教育センター・教育相談」(24名)となっている。

問 8② 「ひきこもり」に関する相談支援機関やサービスについて（利用経験）



問 8② 「ひきこもり」に関する相談支援機関やサービスについて（利用経験）

			利用した ことがある	利用した ことはな い	無回答	全体
件数	町田市が行っている相談支援機関やサービス	(1) 民生委員・児童委員	7	419	70	496
		(2) 町田市保健所	28	350	60	438
		(3) 町田市教育センター・教育相談	24	199	33	256
		(4) 町田市子ども家庭支援センター	13	194	27	234
		(5) 町田市内の学校の適応指導教室	4	76	16	96
	国や東京都の相談支援機関やサービス	(6) 東京都の児童相談所	13	379	67	459
		(7) ハローワークの若年者支援	44	314	75	433
		(8) 東京都の精神保健福祉センター	5	93	17	115
		(9) 東京都ひきこもりサポートネット	1	58	15	74
		(10) 地域若者サポートステーション	4	35	13	52
	その他のサービス	(11) 病院・診療所	39	304	55	398
		(12) 不登校やひきこもりの子ども・若者を支援するNPO等の民間団体・民間のカウンセラー	4	113	27	144
割合	町田市が行っている相談支援機関やサービス	(1) 町田市子ども家庭支援センター N=234	5.6	82.9	11.5	100.0
		(2) 町田市教育センター・教育相談 N=256	9.4	77.7	12.9	100.0
		(3) 町田市内の学校の適応指導教室 N=96	4.2	79.2	16.7	100.0
		(4) 民生委員・児童委員 N=496	1.4	84.5	14.1	100.0
		(5) 町田市保健所 N=438	6.4	79.9	13.7	100.0
	国や東京都の相談支援機関やサービス	(6) 東京都ひきこもりサポートネット N=74	1.4	78.4	20.3	100.0
		(7) 東京都の児童相談所 N=459	2.8	82.6	14.6	100.0
		(8) 東京都の精神保健福祉センター N=115	4.3	80.9	14.8	100.0
		(9) ハローワークの若年者支援 N=433	10.2	72.5	17.3	100.0
		(10) 地域若者サポートステーション N=52	7.7	67.3	25.0	100.0
	その他のサービス	(11) 病院・診療所 N=398	9.8	76.4	13.8	100.0
		(12) 不登校やひきこもりの子ども・若者を支援するNPO等の民間団体・民間のカウンセラー N=144	2.8	78.5	18.8	100.0

○病院・診療所を利用したことのある 39 名に対して、その場所を聞いたところ（複数回答あり）、「市内」21 名、「市外」20 名であった。

問 8② 利用した病院・診療所の場所（市内／市外）

	件数	割合 N=39	割合 (除無回答) N=39
市内	21	53.8	53.8
市外	20	51.3	51.3
無回答	0	0.0	—
全 体	41	—	—

○民間団体、民間カウンセラーを利用したことのある 4 名に対して、その場所を聞いたところ、「市内」2 名、「市外」2 名であった。

問 8② 利用した民間団体・民間のカウンセラーの場所（市内／市外）

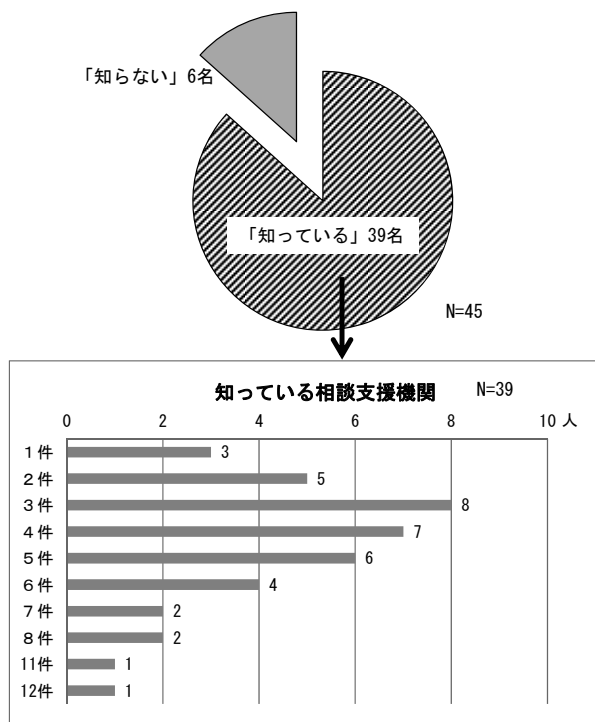
	件数	割合 N=4	割合 (除無回答) N=4
市内	2	50.0	50.0
市外	2	50.0	50.0
無回答	0	0.0	—
全 体	4	100.0	100.0

■「ひきこもり」の状況別にみた相談支援機関やサービスの認知と利用について

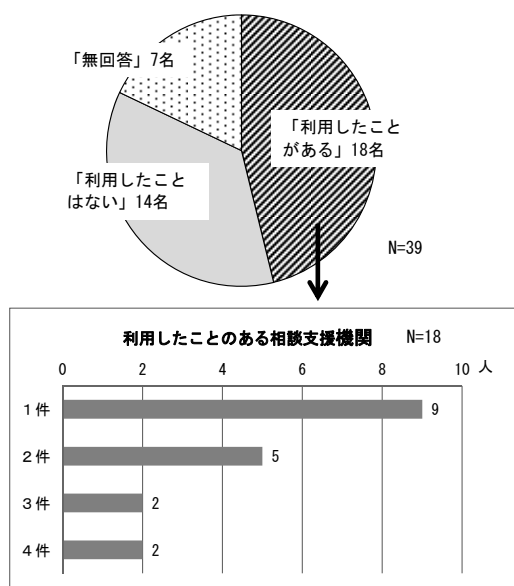
○本人または家族がひきこもりの状況の45名のうち1件も支援機関やサービスを知らない人は6名であった。

○相談支援機関やサービスを知っている39名のうち、「利用したことがある」人は18名であった。

本人または家族がひきこもりの状況の人（45名）の相談支援機関やサービスの認知状況



本人または家族がひきこもりの状況の人（45名）の相談支援機関やサービスの利用状況
（相談支援機関やサービスを知っている人39名の内訳）

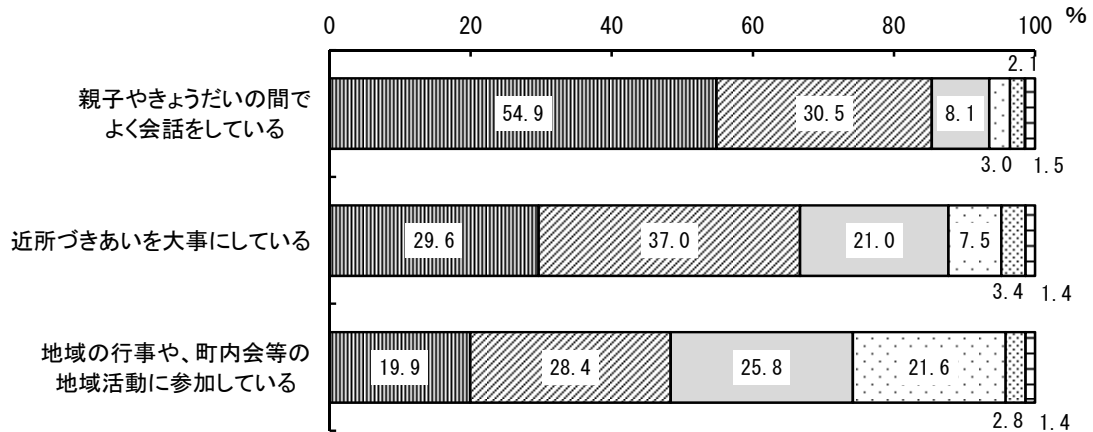


6) 回答者や家族の状況について

(1) 家族の状況について

○「親子やきょうだい間でよく会話をしている」については 54.9%、「近所づきあいを大切にしている」については 29.6%、「地域の行事や町内会等の地域活動への参加」については 19.9%が「あてはまる」と回答している。

問 9 家族の状況について



N=813

■あてはまる ■少しあてはまる ■あまりあてはまらない ■あてはまらない ■どちらともいえない ■無回答

問 9 家族の状況について

			あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	無回答	全体
件数	(1)	親子やきょうだいの間でよく会話をしている	446	248	66	24	17	12	813
	(2)	近所づきあいを大事にしている	241	301	171	61	28	11	813
	(3)	地域の行事や、町内会等の地域活動に参加している	162	231	210	176	23	11	813
割合	(1)	親子やきょうだいの間でよく会話をしている N=813	54.9	30.5	8.1	3.0	2.1	1.5	100.0
	(2)	近所づきあいを大事にしている N=813	29.6	37.0	21.0	7.5	3.4	1.4	100.0
	(3)	地域の行事や、町内会等の地域活動に参加している N=813	19.9	28.4	25.8	21.6	2.8	1.4	100.0
割合 (除無回答)	(1)	親子やきょうだいの間でよく会話をしている N=801	55.7	31.0	8.2	3.0	2.1	—	100.0
	(2)	近所づきあいを大事にしている N=802	30.0	37.5	21.3	7.6	3.5	—	100.0
	(3)	地域の行事や、町内会等の地域活動に参加している N=802	20.2	28.8	26.2	21.9	2.9	—	100.0

■本人または家族がひきこもりの人の家族の状況について

－（２）近所づきあいを大事にしている－

○本人または家族がひきこもりの人では、53.3%が「あてはまらない」または「あまりあてはまらない」と回答している。

本人または家族がひきこもりの人（問 6(1)）の家族の状況について（問 9）

－（２）近所づきあいを大事にしている－

問 9 (2) 近所づきあいを大事にしている

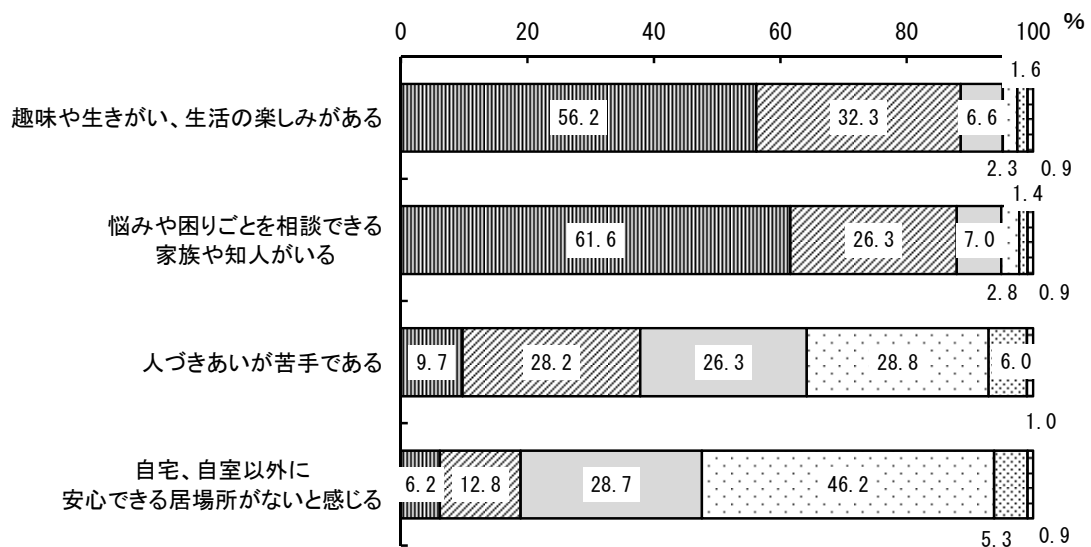
		全体	あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	無回答	あてはまる+少しあてはまる	あまりあてはまらない+あてはまらない	どちらともいえない
全 体		813	241	301	171	61	28	11	542	232	28
		100.0	29.6	37.0	21.0	7.5	3.4	1.4	66.7	28.5	3.4
問 6 (1)	はい	45	17.8	28.9	33.3	20.0	0.0	0.0	46.7	53.3	0.0
本人又は家族	いいえ	764	30.2	37.6	20.4	6.8	3.7	1.3	67.8	27.2	3.7
	無回答	4	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0	0.0	0.0

**1%有意

(2) 回答者自身の状況について

- 「趣味や生きがい、生活の楽しみがある」については 56.2%が「あてはまる」と回答した。
- 「悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる」については 61.6%が「あてはまる」と回答した。
- 「人づきあいが苦手である」については 37.9%が「あてはまる」「少しあてはまると回答した。
- 「自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる」については、19.0%が「あてはまる」「少しあてはまる」と回答した。

問 10 回答者自身の状況について



N=813

■あてはまる ■少しあてはまる ■あまりあてはまらない ■あてはまらない ■どちらともいえない ■無回答

問 10 回答者自身の状況について

		あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	無回答	全体
件数	(1) 趣味や生きがい、生活の楽しみがある	457	263	54	19	13	7	813
	(2) 悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる	501	214	57	23	11	7	813
	(3) 人づきあいが苦手である	79	229	214	234	49	8	813
	(4) 自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる	50	104	233	376	43	7	813
割合	(1) 趣味や生きがい、生活の楽しみがある N=813	56.2	32.3	6.6	2.3	1.6	0.9	100.0
	(2) 悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる N=813	61.6	26.3	7.0	2.8	1.4	0.9	100.0
	(3) 人づきあいが苦手である N=813	9.7	28.2	26.3	28.8	6.0	1.0	100.0
	(4) 自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる N=813	6.2	12.8	28.7	46.2	5.3	0.9	100.0
割合 (除無回答)	(1) 趣味や生きがい、生活の楽しみがある N=806	56.7	32.6	6.7	2.4	1.6	—	100.0
	(2) 悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる N=806	62.2	26.6	7.1	2.9	1.4	—	100.0
	(3) 人づきあいが苦手である N=805	9.8	28.4	26.6	29.1	6.1	—	100.0
	(4) 自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる N=806	6.2	12.9	28.9	46.7	5.3	—	100.0

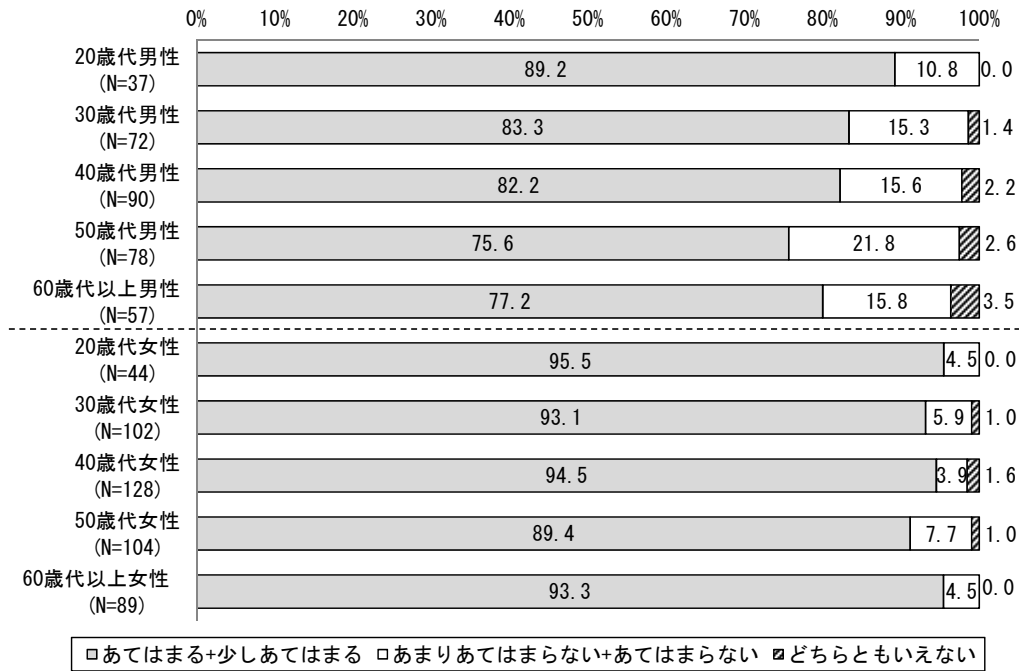
■年齢・男女別 回答者自身の状況について

ー (2) 悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいるー

○男性の方が相談相手がいない傾向がみられ、特に50歳代男性では「あてはまらない」の割合が高い。

男女別・年齢別（問12・問13）にみた 回答者自身の状況について（問10）

ー (2) 悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいるー



		問10(2) 悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる									
		全体	あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	無回答	あてはまる+少しあてはまる	あまりあてはまらない+あてはまらない	どちらともいえない
全 体		813	501	214	57	23	11	7	715	80	11
		100.0	61.6	26.3	7.0	2.8	1.4	0.9	87.9	9.8	1.4
問12 性別	20歳代男性	37	70.3	18.9	8.1	2.7	0.0	0.0	89.2	10.8	0.0
問13 年齢	20歳代女性	44	77.3	18.2	2.3	2.3	0.0	0.0	95.5	4.5	0.0
	30歳代男性	72	50.0	33.3	12.5	2.8	1.4	0.0	83.3	15.3	1.4
	30歳代女性	102	76.5	16.7	3.9	2.0	1.0	0.0	93.1	5.9	1.0
	40歳代男性	90	43.3	38.9	13.3	2.2	2.2	0.0	82.2	15.6	2.2
	40歳代女性	128	70.3	24.2	3.1	0.8	1.6	0.0	94.5	3.9	1.6
	50歳代男性	78	43.6	32.1	11.5	10.3	2.6	0.0	75.6	21.8	2.6
	50歳代女性	104	69.2	20.2	4.8	2.9	1.0	1.9	89.4	7.7	1.0
	60歳代以上男性	57	50.9	26.3	10.5	5.3	3.5	3.5	77.2	15.8	3.5
	60歳代以上女性	89	61.8	31.5	4.5	0.0	0.0	2.2	93.3	4.5	0.0
	無回答	12	66.7	25.0	0.0	0.0	0.0	8.3	91.7	0.0	0.0

**1%有意

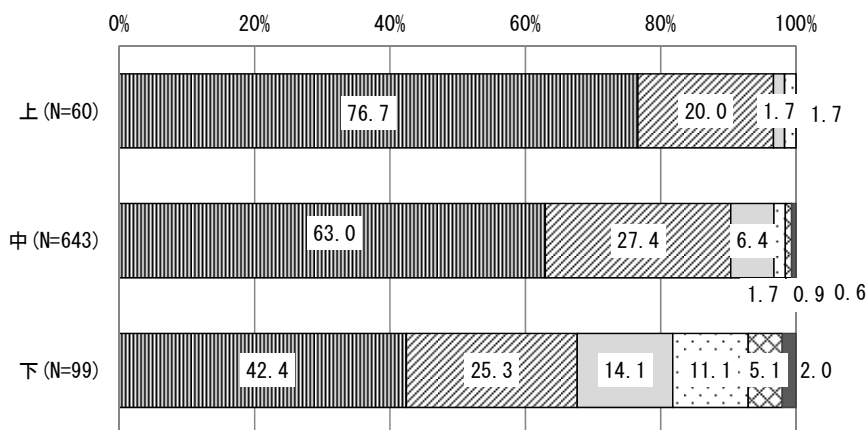
■暮らし向き別 回答者自身の状況について

－ (2) 悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる－

○暮らし向きについて「上」と感じている人では「あてはまる」「少しあてはまる」の割合が高く、「中」「下」となるほどその割合は低くなっている。
○「下の中」、「下の下」では「あてはまらない」、「あまりあてはまらない」の割合が3割を超えている。

暮らし向き別（問18）にみた 回答者自身の状況について（問10）

－ (2) 悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる－



■あてはまる □少しあてはまる □あまりあてはまらない □あてはまらない □どちらともいえない ■無回答

暮らし向き別（問18）にみた 回答者自身の状況について（問10）

－ (2) 悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる－

問10(2) 悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる

		全体	あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	無回答	あてはまる+少しあてはまる	あまりあてはまらない+あてはまらない	どちらともいえない
全 体		813	501	214	57	23	11	7	715	80	11
		100.0	61.6	26.3	7.0	2.8	1.4	0.9	87.9	9.8	1.4
問18 暮らし向き	上の上	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	上の中	20	75.0	20.0	5.0	0.0	0.0	0.0	95.0	5.0	0.0
	上の下	38	76.3	21.1	0.0	2.6	0.0	0.0	97.4	2.6	0.0
	中の上	212	66.5	25.9	5.7	0.9	0.5	0.5	92.5	6.6	0.5
	中の中	316	63.6	27.2	5.4	1.9	1.3	0.6	90.8	7.3	1.3
	中の下	115	54.8	30.4	10.4	2.6	0.9	0.9	85.2	13.0	0.9
	下の上	56	48.2	26.8	14.3	5.4	3.6	1.8	75.0	19.6	3.6
	下の中	29	31.0	34.5	13.8	17.2	3.4	0.0	65.5	31.0	3.4
	下の下	14	42.9	0.0	14.3	21.4	14.3	7.1	42.9	35.7	14.3
無回答		11	72.7	9.1	9.1	0.0	0.0	9.1	81.8	9.1	0.0

**1%有義

■本人または家族がひきこもりの人の状況について

－（２）悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる－

○本人または家族がひきこもりの人（45人）の状況についてみたところ、「あてはまる」または「少しあてはまる」の割合は、そうでない人と比べて低くなっており、26.7%は「あてはまらない」または「あまりあてはまらない」としており、相談相手が少ない状況にある。

本人または家族がひきこもりの人（問6(1)）の 回答者自身の状況について（問10）

－（２）悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる－

問10(2) 悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる

		全体	あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	無回答	あてはまる+少しあてはまる	あまりあてはまらない+あてはまらない	どちらともいえない
全 体		813	501	214	57	23	11	7	715	80	11
		100.0	61.6	26.3	7.0	2.8	1.4	0.9	87.9	9.8	1.4
問6(1) 本人又は家族	はい	45	51.1	22.2	15.6	11.1	0.0	0.0	73.3	26.7	0.0
	いいえ	764	62.3	26.6	6.5	2.4	1.4	0.8	88.9	8.9	1.4
	無回答	4	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0	0.0	0.0

**1%有意

■男女別 回答者自身の状況について

－（３）人づきあいが苦手である－

○どちらかというとな男性の方が、人づきあいが苦手と感じる人が多い傾向にある。男性の41.6%が「あてはまる」または「少しあてはまる」としている。

男女別（問12）にみた 回答者自身の状況について（問10）

－（３）人づきあいが苦手である－

問10(3) 人づきあいが苦手である

		全体	あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	無回答	あてはまる+少しあてはまる	あまりあてはまらない+あてはまらない	どちらともいえない
全 体		813	79	229	214	234	49	8	308	448	49
		100.0	9.7	28.2	26.3	28.8	6.0	1.0	37.9	55.1	6.0
問12 性別	男性	334	12.0	29.6	27.2	26.9	3.3	0.9	41.6	54.2	3.3
	女性	467	8.1	27.2	25.7	30.2	7.9	0.9	35.3	55.9	7.9
	無回答	12	8.3	25.0	25.0	25.0	8.3	8.3	33.3	50.0	8.3

**1%有意

■暮らし向き別 回答者自身の状況について

－ (3) 人づきあいが苦手である－

○暮らし向きが「下」と回答した人では「あてはまる」または「少しあてはまる」の割合が高く、「中」、「上」となるほどその割合は低くなっている。「下の上」、「下の中」では「あてはまる」「少しあてはまる」の割合が半数を超えている。

暮らし向き別（問18）にみた 回答者自身の状況について（問10）

－ (3) 人づきあいが苦手である－

問10(3)人づきあいが苦手である											
		全体	あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	無回答	あてはまる+少しあてはまる	あまりあてはまらない+あてはまらない	どちらともいえない
全 体		813	79	229	214	234	49	8	308	448	49
		100.0	9.7	28.2	26.3	28.8	6.0	1.0	37.9	55.1	6.0
問18 暮らし向き	上の上	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	上の中	20	5.0	15.0	35.0	45.0	0.0	0.0	20.0	80.0	0.0
	上の下	38	13.2	10.5	15.8	55.3	5.3	0.0	23.7	71.1	5.3
	中の上	212	9.4	26.9	28.3	29.7	4.7	0.9	36.3	58.0	4.7
	中の中	316	7.3	28.5	28.5	27.5	7.6	0.6	35.8	56.0	7.6
	中の下	115	12.2	33.0	23.5	26.1	4.3	0.9	45.2	49.6	4.3
	下の上	56	12.5	39.3	17.9	17.9	10.7	1.8	51.8	35.7	10.7
	下の中	29	17.2	41.4	24.1	17.2	0.0	0.0	58.6	41.4	0.0
	下の下	14	28.6	14.3	14.3	28.6	7.1	7.1	42.9	42.9	7.1
	無回答	11	0.0	9.1	36.4	36.4	9.1	9.1	9.1	72.7	9.1

**1%有意

■本人または家族がひきこもりの人の状況について

－ (3) 人づきあいが苦手である－

○本人または家族がひきこもりの人（45人）の「あてはまる」または「少しあてはまる」の割合は62.2%で、そうでない人と比べて高くなっている。

本人または家族がひきこもりの人（問6(1)）の回答者自身の状況について（問10）

－ (3) 人づきあいが苦手である－

問10(3) 人づきあいが苦手である											
		全体	あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	無回答	あてはまる+少しあてはまる	あまりあてはまらない+あてはまらない	どちらともいえない
全 体		813	79	229	214	234	49	8	308	448	49
		100.0	9.7	28.2	26.3	28.8	6.0	1.0	37.9	55.1	6.0
問 6 (1) 本人又は家族	はい	45	28.9	33.3	11.1	26.7	0.0	0.0	62.2	37.8	0.0
	いいえ	764	8.6	27.9	27.2	28.9	6.4	0.9	36.5	56.2	6.4
	無回答	4	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0

**1%有意

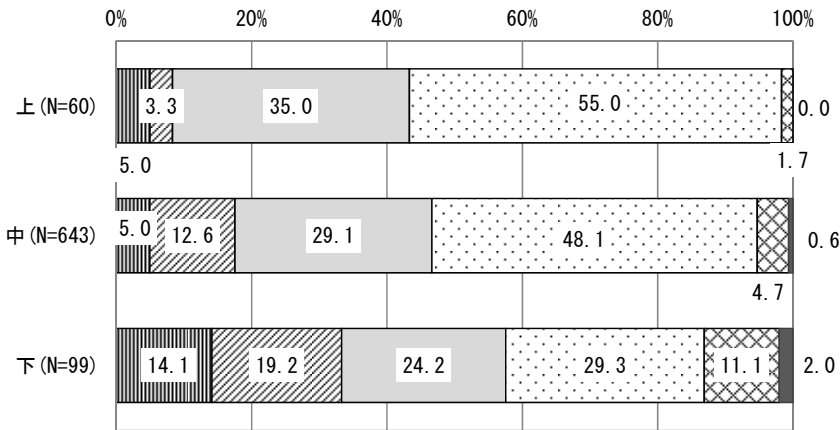
■暮らし向き別 回答者自身の状況について

－（４）自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる－

○暮らし向き別に回答状況をみたところ、「下」と回答した人では「あてはまる」または「少しあてはまる」の割合が高く、自宅・自室以外に安心できる居場所がないと感じていることがわかる。「中」、「上」となるほどその割合は低くなる傾向がみられる。

暮らし向き別（問 18）にみた 回答者自身の状況について（問 10）

－（４）自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる－



■あてはまる □少しあてはまる □あまりあてはまらない □あてはまらない □どちらともいえない ■無回答

暮らし向き別（問 18）にみた 回答者自身の状況について（問 10）

－（４）自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる－

問10(4) 自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる

		全体	あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	無回答	あてはまる+少しあてはまる	あまりあてはまらない+あてはまらない	どちらともいえない
全 体		813	50	104	233	376	43	7	154	609	43
		100.0	6.2	12.8	28.7	46.2	5.3	0.9	18.9	74.9	5.3
問18 暮らし向き	上の上	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	上の中	20	5.0	5.0	30.0	55.0	5.0	0.0	10.0	85.0	5.0
	上の下	38	5.3	2.6	36.8	55.3	0.0	0.0	7.9	92.1	0.0
	中の上	212	3.8	10.4	31.1	50.9	3.3	0.5	14.2	82.1	3.3
	中の中	316	4.4	12.7	31.0	46.8	4.4	0.6	17.1	77.8	4.4
	中の下	115	8.7	16.5	20.0	46.1	7.8	0.9	25.2	66.1	7.8
	下の上	56	8.9	17.9	30.4	32.1	8.9	1.8	26.8	62.5	8.9
	下の中	29	20.7	24.1	24.1	24.1	6.9	0.0	44.8	48.3	6.9
	下の下	14	21.4	14.3	0.0	28.6	28.6	7.1	35.7	28.6	28.6
	無回答	11	9.1	18.2	9.1	45.5	9.1	9.1	27.3	54.5	9.1

**1%有意

■本人または家族がひきこもりの人の状況について

－（４）自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる－

○「あてはまる」の割合は全体と比較すると高いが、半数以上はあてはまらない状況である。

本人または家族がひきこもりの人（問 6(1)の 回答者自身の状況について（問 10）

－（４）自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる－

問10(4) 自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる

		全体	あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	無回答	あてはまる+少しあてはまる	あまりあてはまらない+あてはまらない	どちらともいえない
全 体		813	50	104	233	376	43	7	154	609	43
		100.0	6.2	12.8	28.7	46.2	5.3	0.9	18.9	74.9	5.3
問 6 (1)	はい	45	13.3	22.2	22.2	35.6	6.7	0.0	35.6	57.8	6.7
本人又は家族	いいえ	764	5.8	12.2	28.9	47.1	5.2	0.8	17.9	76.0	5.2
	無回答	4	0.0	25.0	50.0	0.0	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0

*5%有意

7) 若年者の様々な課題や町田市の取り組み等について（自由回答）

- 様々な意見がみられる中、「このアンケートを通じて、市の取り組みや事業を初めて知った」、「もっと市の事業について積極的に広報してほしい」、「必要としている人に情報が届くようにしてほしい」等、市の取り組みや事業に関する意見や、それらの広報に関する意見が多かった。様々な機関で相談支援活動を行っていることについて、評価するという意見がある一方で、分かりづらいので一本化すべきであるとの意見もあった。
- ひきこもりやニート等の問題には、社会的な要因があるという意見もあった。核家族できょうだいが少ない環境で育ち、友達との遊びやコミュニケーションツールが変化していることから、コミュニケーション能力が育ちにくい、精神的に弱い等の指摘があった。また、経済状況の低迷、正規雇用の減少など働きたくても働けない状況があり、もっと雇用対策や就労環境の整備に取り組んでいくべきであるという意見がみられた。
- ひきこもりやニート等を増やさない、予防的な取組が必要という意見もあり、学校教育や地域の中で子ども達のコミュニケーション能力を高めていく取組が必要、とする意見があった。また現在小さい子どもを育てている親世代への教育の必要性も指摘された。
- その一方で、ひきこもりやニート等の問題は、家庭や個人の問題であり、働く意欲のない人に対して公的支援を行うのは無駄である、とする意見や、生活保護を受けて働いていない若者に対する批判等もみられた。
- また、学校や職場でのいじめ問題に言及する意見も目立ち、解決への取り組みを訴える意見が多かった。
- 回答者の中には、実際にひきこもり経験のある方や、発達障害の子どもを抱えている方、うつ、精神疾患など、様々な課題を抱えている方がいた。中には、身近な相談窓口や支援を求める切実な意見もみられた。
- 問 11 の意見内容は、次頁の表の通りである。

問 11 若年者の様々な課題や町田市の取り組み等について（自由回答）

分 類	(件)	内 訳	(件)
若者支援に積極的に取り組んでほしい	99	支援・取組のPRや広報の工夫をしてほしい	32
		支援・取組の充実、推進を望む	16
		相談窓口を充実してほしい	12
		取組について初めて知った	7
		窓口の一元化を図ってほしい	3
		居場所・コミュニティづくりを行ってほしい	3
		関係機関の連携を進めてほしい	3
		医療面からの支援を行ってほしい	2
		その他	21
ひきこもりやニートを増やさない、予防的な取組を進めてほしい （子どもの頃からの教育、親への支援など）	54		54
ひきこもりやニートの背景には、社会的な要因がある （経済状況、遊びの変化、家族形態の変化など）	36		36
雇用対策や就労環境の整備を進めてほしい	18		18
学校や職場でのいじめ対策に取り組んでほしい	12		12
若者支援には賛成できない	15	ひきこもりやニートは家庭や個人の問題である	13
		行き過ぎた支援は逆効果	2
その他	10		10
合 計	244	合 計	244

